ISSN 2189-3276

和光市デジタルミュージアム紀要

第３号

目次

＜論稿＞
「収蔵資料データベース」所収民俗資料の調査について　森朋久　ｐ 1
＜資料紹介＞
吹上貝塚のフィルム整理（覚書）　安井翠　ｐ 15
＜実践報告＞
平成 27 年度和光市市制施行 45 周年記念特別展
「出土遺物の交流と結」‐自治体間相互応援協定締結 20 周年記念‐の記録　鈴木一郎　ｐ 25
＜新指定文化財の紹介＞
午王山遺跡発掘調査出土の弥生時代遺物　和光市教育委員会　ｐ 39

＜別集＞
和光市内の「引又道」と「道しるべ」　和光市歴史と文化を学ぶ会

2017.3

和 光 市 教 育 委 員 会

序文

地域の文化財とは、先人によりこの地に育まれ現代まで伝えられてきた、知恵や経験、活動の成果及びそれが存在する環境など、地域文化を構成する多様な価値観を持つ歴史的・文化的・自然的遺産であります。

和光市では、このような郷土ゆかりの貴重な文化財等を、次世代に継承していくために、多くの方々から資料等の寄託や寄附をいただき、文化財保存庫に収蔵してきました。これらの収蔵物等を広く市民の皆様をはじめ多くの方々にご紹介し、本市の歴史や文化をご理解いただくツールとして、平成２４年４月１日に、「和光市デジタルミュージアム『れきたま』」を、Web 上に構築をして配信を開始しました。そして、昨年度からは、さらに『れきたま』の充実を図るべく、「和光市デジタルミュージアム紀要」を創刊し、併せてWeb 上において公開をしております。

今回は、明治大学農学部兼任講師・和光市文化財保護委員会委員の森朋久氏から、「『収蔵資料データベース』所収民俗資料の調査について」貴重な成果をお寄せいただき、紀要内容の充実にご協力を賜りました。誠にありがとうございました。また、今年度指定文化財となった「午王山遺跡発掘調査出土の弥生時代遺物」の紹介や当教育委員会文化財保護担当職員２名の論稿、さらに、別集として当市で活動する和光市歴史と文化を学ぶ会から寄稿して頂いた「和光市内の『引又道』と『道しるべ』」を掲載しました。

歴史文化遺産の保護は、地域における祖先の営みを知り、地域の歴史を正しく理解し、地域の文化の向上に資するものとして、今の時代に生きる私たちに課せられた大切な役割です。また、このような資料の蓄積は、当市の歴史や文化財を学び理解していただく上で有効なものであると考えています。ふるさと再発見のために、歴史文化遺産をトータルに見つめる眼を養っていただく一助として、本紀要が多くの方々にご活用いただけますれば幸甚に存じます。

結びに、本紀要の刊行にあたり公私ともご多用の中、ご協力をいただきました先生方をはじめ、たくさんのご教示・ご高配を賜りました関係各位に心より厚く御礼申し上げまして、あいさつといたします。

平成 29 年 3 月
和光市教育委員会
教育長　戸部　惠一

「収蔵資料データベース」所収民俗資料の調査について

森　朋久

1. はじめに

和光市デジタルミュージアム「れきたま」で閲覧可能である「収蔵資料データベース」は、現在市保管の民俗資料に関するデータベースであり、平成21年に実施した調査結果をもとに作成されたものである。本調査の経過や意義については別稿[1]において、すでに学術調査報告として発表したが、市民に対しては当時紀要等、専門的な論説が可能な報告書がなく、和光市民への報告はなされないまま今日に至る。しかし、平成26年度に『和光市デジタルミュージアム紀要』が創刊されたことにより、上記の問題が解決され、やや専門的な文章が公開できるようになった。「収蔵資料データベース」には現段階では、出典または元となる調査等について触れていないが、本来文化財報告は原典や調査経過、その意義については明記すべきであり、当時の責任者のひとりとして本稿を寄稿することとした。なお、別稿と論が重なる部分があることをお許しいただきたい。

さて、「歴史民俗データベース」の原典となる調査は、平成21年7月1日から同年12月25日までの、同市文化財保存庫（埼玉県和光市諏訪3―20　市立第四小学校内）に保管されている歴史・民俗資料の整理事業である。事業の内容は、文化財保存庫保管の埋蔵文化財を除く民俗資料・古文書・行政文書類を、市民への公開へ備え整理し、かつ整理対象となった歴史・民俗資料を収録した資料台帳を作成するというものである。作業員は、筆者のほか和光市在住高年齢者5人で、筆者が作業員の指導者としての統括役となった。作業員は、生涯教育・文化事業に未経験者であったが、行政での市民との協働が当たり前である今日において、文化財行政・博物館・資料館運営においても市民参加は当然である。それまで筆者は、ある程度専門教育を受けた学生や卒業生を束ねた調査経験はあったが、まったくの文化財の専門家ではない市民を統括する事業は初めてのことであり、かなり先行きに不安をもっていた。しかし教育委員会の適切な援助もあり、事業が開始され作業が進められるに従い、その懸念は払しょくされ、事業は順調に進んだ。事業最終日（12月25日）午後に同保存庫を市民に公開した。2時間余りの公開に参加者は80人にのぼり、整理作業完遂という当初の事業目標以上の成果に至った[2]。

資料整理の成果物である歴史資料目録（諸家文書目録）および民俗文化財台帳と各データベースの作成も事業終了日に完了した。この時に作成された民俗資料関連の文化財整理カード（台帳）およびデータベースをもとに「収蔵資料データベース」が作成されている。

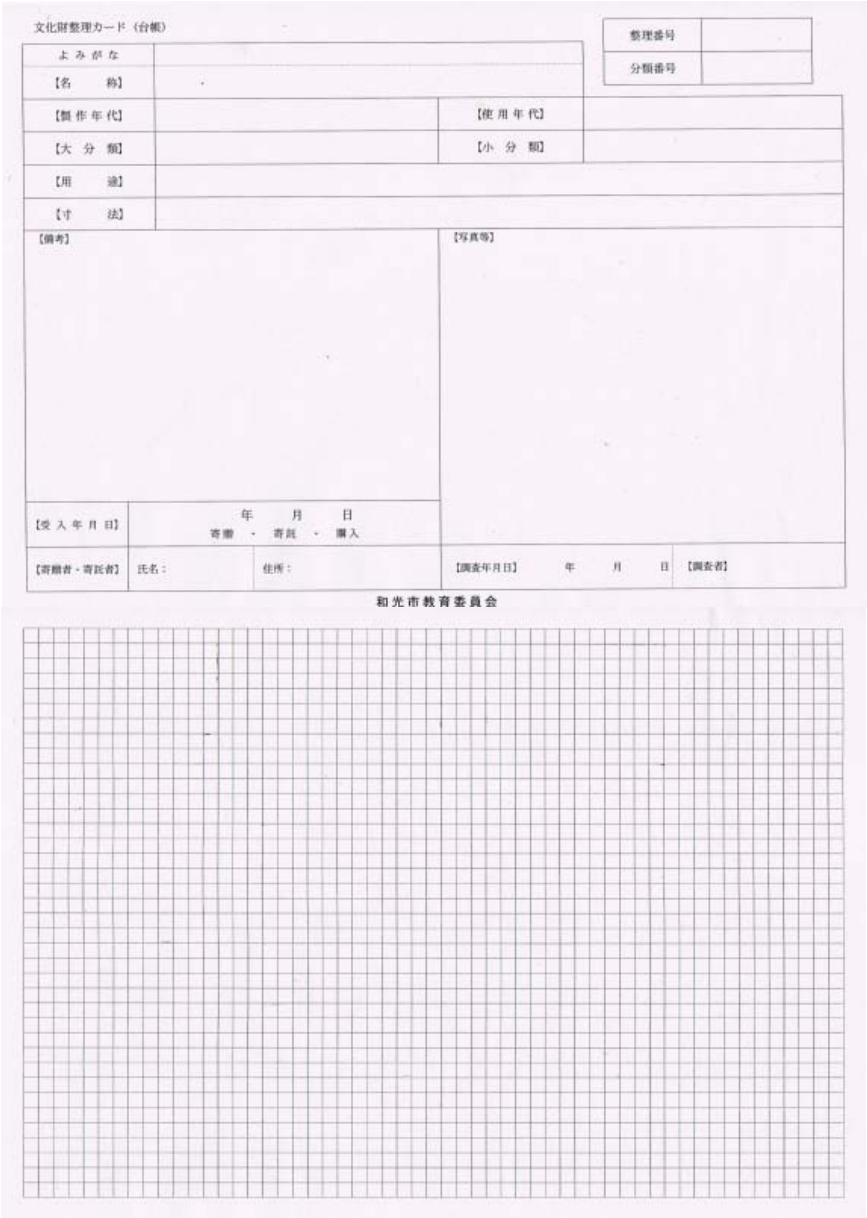
以下では、文化財整理カード（台帳）の作成と、資料台帳のデータベース化を中心に論じる。整理対象とした資料は、おもに民具および付属文書・写真といった有形民俗資料であり、平行して実施した古文書・近現代文書の整理作業は一般的な古文書目録の作成方式に従ったので省略する。

2．文化財整理カード（台帳）の作成

【台帳作成上の留意点】

「文化財整理カード（台帳）」（以下「台帳カード」と略す）（図1）は、民具など民俗資料の調査結果の記載を目的とするものである。箪笥（たんす）や文箱、戸棚などに存在する文書類や写真も民俗資料の一環として記載することも想定している。

一般市民が対象資料情報を記載しやすいように、記入欄の項目数を必要最小限に限定し、かつ記入欄に記載する内容と字数を最小限とする


文化財整理カード（台帳）

よみがな		整理番号	
【名　　称】		分類番号	
【制作年代】		【使用年代】	
【大分類】		【小分類】	
【用　　途】			
【寸　　法】			
【備考】		【写真等】	
【受入年月日】	年　月　日 寄贈 ・ 寄託 ・ 購入		
【寄贈者・寄託者】	氏名：	住所：	【調査年月日】　年　月　日　【調査者】

和光市教育委員会

図１　文化財整理カード（台帳）

とともに、各項目の文字を比較的大きく記載できるように、各記入欄の幅に少し余裕を持たせた。項目名や枠の色は、記載した内容がはっきり目立つように黒ではなく、市販の方眼紙に準じた濃い水色とした。

【台帳カードの仕様】
［用紙サイズ］Ａ３［紙質］上質紙　［仕様］たて仕様・片面印刷・横二つ折上下段として使用
［印刷色］濃い水色
［上段の項目］①「整理番号」②「分類番号」③「名称」④「よみがな」⑤「制作年代」⑥「使用年代」⑦「大分類」⑧「小分類」⑨「用途」⑩「寸法」⑪「備考」⑫「写真等 (貼付)」⑬「受入年月日　寄贈・寄託・購入」⑭「寄贈・寄託者 (氏名・住所)」⑮「調査年月日・調査者」
［下段の項目］⑯「５ミリ方眼」

【各項目の概要】
①「整理番号」…整理順につける番号。
②「分類番号」…大分類または小分類ごとの番号、大分類は番号、小分類は番号またはアルファベットとするのが望ましい。
③「名称」
④「よみがな」…資料の名称。一般的な名称と当該地域の呼称との両者がある場合、当該地域の呼称・一般名称の順に併記する。例えば、「柄鍬（えぐわ）」という一般的な農具があるが、和光市ではこの農具のことを読みを約めて「エンガ」と言い慣わしていた。「柄鍬」の台帳カードには「柄鍬　エンガ　えぐわ」と記す。
⑤「制作年代」…制作された年代。使用された年代と異なる場合がある。
⑥「使用年代」…使用された年代。但し、⑤「制作年代」⑥「使用年代」がわかる民具はごく一部である。
⑦「大分類」…大分類を記載。
⑧「小分類」…小分類を記載。
⑨「用途」…地域での用途、わからなければ一般的な用途を記載。最小の内容（４０～６０字）程度に押さえる。それ以上の情報があれば⑪「備考」欄へ追記。
⑩「寸法」…幅・奥行・高さを㎝で記載。民具は形態によって詳細に採寸できるもの、または採寸すべきものもあるが、本調査では、資料の保管・保存場所または展示場所の確保を前提に、必要最小限の寸法を記載することとした。
⑪「備考」…その資料ならではの情報を記載または⑨「用途」欄に記載しきれない情報を追記。例えば資料に記載された文字など。
⑫「写真等（貼付）」…原則として正面、左面、右面の３枚の写真を貼付。
⑬「受入年月日　寄贈・寄託・購入」…受入年月日　寄贈・寄託・購入のいずれかに○印をつける（個人情報のため非公開）。
⑭「寄贈・寄託者（氏名・住所）」…寄贈・寄託者の住所・氏名を記載（個人情報のため非公開）。
⑮「調査年月日・調査者」…調査の年月日・調査担当者。
⑯「５ミリ方眼」…資料のスケッチまたは「写真等」欄に入りきれない写真を貼付する。

【資料添付の識別票（タグ）の仕様と記載項目】
台帳カードと資料を連結するものが各資料に添付される識別票（タグ）である。市販の荷札を利用したが、付属の針金は外し、凧紐に付け替えた。識別票を針金で資料に結ぶと、いずれ針金が錆び資料を汚損するが、これを避けるためである。識別票に必ず台帳カード記載の整理番号または分類番号と同じ数字または分類記号をかなり慎重に記載した。これを誤ると台帳カードと資料の照合が非常に困難となる恐れがある。

【作業の手順】
調査者が、資料を一点一点調査しながら台帳カードに記載した。筆記用具は、作業中に誤って資料を汚損することを避けるために、原則として鉛筆を使用した。しかし、識別票（タグ）記載の整理番号や分類番号は、作業場所や保存庫内では照度の関係から鉛筆では文字が目立たず、作業がし辛かったので、慎重を期したうえで例外的にマジックを使用した。台帳カードの①「整理番号」に数字を記載し、同数字を記載した識別票（荷札・タグ）を対応する資料に添付した。番号は、数値が大凡の調査時期を示すように、調査順とした。識別票は、データベース完成後に作成されるタックシールを裏面に貼付できるように、整理番号・分類番号は片面に記載した。
②「分類番号」⑦「大分類」⑧「小分類」⑨「用途」は、全部またはほとんどの資料が台帳カードに登録されたのち、一挙に処理した。始めに最低限必要な情報は、③「名称」④「よみがな」⑩「寸法」⑪「備考」に記載する資料記載の文字情報等、⑬「受入年月日　寄贈・寄託・購入」⑭「寄贈・寄託者（氏名・住所）」⑮「調査年月日・調査者」⑯「５ミリ方眼」（資料のスケッチ）である。
資料スケッチは、製図実測ではなく素描で十分であり、できるだけその資料ならではの特徴

を少し詳細に描いた。スケッチは、台帳カードに対する写真貼付時や、原資料保管が厳重で資料がすぐにみられない時、その大凡の形・姿を把握する際に便利である。資料スケッチは、調査者の能力や慣れ、原資料の形の精巧さ等によりカード間に見た目のバラつきが生じがちである。しかし後で見直すと、作業員の努力の賜物のお陰で、どのカードのスケッチも優れたものであった。諸般の事情により「収蔵資料データベース」で公開できないのは、残念である。

⑫「写真等（貼付）」に貼付する資料調査時に撮影する資料写真は、パソコン利用の利便性を考慮しデジタルカメラを使用した。一眼およびコンパクト各デジタルカメラを適宜利用した。平成 21 年当時、コンパクトデジタルカメラでも画像解像度が高く、丁寧に撮れば情報公開用の写真は撮れた。「収蔵資料データベース」収蔵写真のほとんどは、本調査時に撮影されたものである。撮影後すぐ、遅くとも２～３日のうちにデジタルカメラの SD カードに記録された画像データ（画像ファイル）をパソコンにダウンロードし、プリンターで印画紙に出力して台帳の⑫「写真等」欄に貼付するように心がけた。作業過程で未処理の画像データが多量となると、台帳カードとの突き合わせにかなりの時間がとられることが分かったからである。作業の後半では、週に１回写真整理の時間を特に設けて、集中的に処理するようになった。⑫「写真等」欄に、該当する画像データの画像ファイル名（「○○○．jpg」など）を記載し、写真貼付や台帳カードのデータベース化に利用した。

⑦「大分類」⑧「小分類」のうち、⑦「大分類」は国や県の文化財保護法の有形民俗資料の定義をふまえた分類、⑧「小分類」は、⑦「大分類」内の分類で地域の特徴をふまえた分類とした。和光市の調査では民俗資料コード表（表 1）を作成した。作成に当たっては、特に南隣する東京都練馬区の民具分類表を参考にし、さらに練馬区にはない特徴、例えば和光市北部を流れる大河川・荒川等河川との関係等、和光市の歴史民俗的特徴を加味して作成した。分類コードは、大分類数字１桁、小分類アルファベット１桁の２桁の分類コードとし、分類コードを分類番号の先頭につけることとした。

⑨「用途」は、当該地域での利用法と一般的な利用法を併記した。『和光市史・民俗編』・和光市教育委員会発行調査報告書、近隣自治体の練馬区・朝霞市・所沢市・川越市などの民俗資料調査報告書を参考に和光市での利用法を記載し、民俗・民具関係の一般書などを参考に一般的な利用法を記載した。参考文献は⑪「備考」に記載した。

②「分類番号」記載は、最後の作業である。その終了後に台帳カードを整序した。その方法は、まず小分類単位で集め、整序順はデータベース化を考慮し基本的に「アイウエオ順」である。民具などモノ資料のほか文書類・写真があれば「モノ資料」「文書類」「写真」の各群に分け、モノ資料は「アイウエオ」順、「文書類」「写真」はそれぞれ年代順に配列した。この作業終了後、小分類単位の台帳群を大分類単位で集め分類コード順に整序し、ファイリングをした。

３．台帳データベースの作成

台帳カードの記載内容をデータベース化する作業について以下述べる（以下このデータベースを「台帳データベース」と呼称）。使用ソフトは、役所・企業で汎用されているエクセル（office2003）を使用し、資料に添付する識別票（荷札・タグ）に貼付するタックシールの作成、印刷にはワード（office2003）を併用した。単票（台帳）形式と帳票（目録）形式と二形式があるが、多目的利用を考慮して帳票形式とした。

【データベースと台帳（カード）の対応関係】

台帳データベース	台帳（カード）
A 「整理番号」	①「整理番号」
B 「（整理番号の）枝番」	①「整理番号（枝番）」
C 「分類番号」	②「分類番号」
D 「名称」	③「名称」
E 「読み仮名 (カナ)」	④「よみがな」
F 「大分類」	⑦「大分類」
G 「小分類」	⑧「小分類」
H 「使用目的・使用方法」	⑨「用途」

I 「寸法」	⑩「寸法」
J 「使用時期」	⑤「制作年代」
	⑥「使用年代」
K 「寄贈・寄託者」	⑭「寄贈・寄託者（氏名・住所）」
L 「寄贈・寄託年月日」	⑬「受入年月日 寄贈・寄託・購入」
M「備考」	⑪「備考」
N 「保管場所」	⑪「備考」
O「出典１」	⑪「備考」
P 「（出典１）頁」	⑪「備考」
Q「出典２」	⑪「備考」
R 「（出典２）頁」	⑪「備考」

項目は台帳カードに準拠したが、⑫「写真等」は、他フォルダに一括保存した画像データの画像ファイルへ対してハイパーリンクするため省略。⑬「受入年月日　寄贈・寄託・購入」⑭「寄贈・寄託者（氏名・住所）」はそれぞれ一つの欄にまとめた（個人情報のため非公開）。⑮も省略。

台帳データベース作業にも従事した同作業員の意見により、次の変更を行った。例えば資料のなかには、食器棚とそのなかの食器等資料等、入れ物としての資料と入れ物内の資料も存在し、この関係を確実に表示するためにやむを得ず、台帳カードの①「整理番号」は枝番号を付したものがあり、データベースでは枝番号を独立した項目B「枝番」とした。台帳カードの⑨「用途」の項目名をH「使用目的・使用方法」に、⑤「制作年代」⑥「使用年代」を一括してJ「使用時期」にそれぞれ変更した。O「出典１」P「（出典１）頁」Q「出典２」R「（出典２）頁」は、H「使用目的・使用方法」を記入する際に利用した参考文献の記載欄で、参考文献が２点ある場合のみQ、R各欄を使用した。

データベースは情報検索機能をもち、この機能を十分利用するために、本調査では台帳カード作成と台帳データベース作成を並行して行った。その効果があり、台帳カードの並べ替えや整理作業の効率化に繋がったようである。

入力にあたっては、エクセルの機能「オートフィルタ」を利用した。これで一度入力した用語は同一行のセルに限りプルメニュー画面から選択、左クリックのみで簡単に入力することができる。民俗資料は古文書等歴史資料の整理と異なり、同じ名称や同じ用途の資料が多く見受けられ、「オートフィルタ」機能も作業の効率化に繋がった。

【保管場所】

N「保管場所」は、資料の保管場所を入力する。和光市の事業では、文化財保存庫一階は既設の固定棚（棚段は可変）に資料を保管することとし、固定棚の位置によってＡ～Ｉの記号を付し、一階、二階で資料を平置きする場所も棚に準じその場所を記号で表示した。整理作業開始以前は固定棚の棚段は場所により区々であったが、すべて４段に統一し高さも同一とし、棚段の下から１～４（段目）の番号を付した。これにより、例えばＡ棚の下から２段目に保管されている資料は、保管場所「Ａ２」と、資料保管場所を記号で表記可能となる。資料は、原則として立ち作業で資料の搬入や搬出が比較的容易な、棚段の２、３段目に分類番号順に配置したが、棚の奥行、資料の素材、重量、大きさなどで適宜保管場所を変更した。例えば、保存庫の棚の奥行の関係からＡ棚ではなくＣ棚から資料を並べ始め、瓶・徳利など壊れやすい物や石臼など重量級の物、舟やリヤカーなど大型の物などは棚の１段目や平置き場所に保管した。４段目は落としても破損しない、例えば文書類を保管した紙箱等を入れる場合もあったが、将来的に保管資料が増加する備えとして出来るだけ空き棚とした。

【写真の管理】

本調査における全資料の画像データの画像ファイルを保存する画像フォルダ（大画像フォルダ）を作成し、デジタルカメラのSDカードの画像ファイルを一括保存した。例えば、整理番号００１の資料の画像ファイル名は「○○００１正面.jpg」に改める等、各資料の「整理番号」または「分類番号」が反映されるように画像ファイル名を変更したため、資料と画像ファイルとの対応が容易となった。１つの資料

の写真は、正面・左面・右面の３枚であれば画像データも３ファイルとなり、３ファイルを画像フォルダ（大画像フォルダ）内に作成した画像フォルダ（小画像フォルダ）に保存した。例えば整理番号００１の資料の画像フォルダ（小画像フォルダ）名は「○○００１」とするように、資料の整理番号または分類番号と画像フォルダ名を対応させた。台帳データベースと写真の画像ファイル（小画像フォルダ）との対応はハイパーリンクを利用した。「整理番号」または「分類番号」の番号欄で右クリックで表示された「ハイパーリンク」を選択し、さらに資料名と対応した画像フォルダ（小画像フォルダ）を指定する。こうすれば「整理番号」または「分類番号」を左クリックするのみで、対応する画像フォルダ（小画像フォルダ）にリンクできる。

【識別票（タグ）貼付タックシールの作成】

資料に添付する識別票（荷札・タグ）に貼付するタックシールの印刷は、ワードの「差し込み印刷」を利用した。例えば、エクセルで作成した、郵便番号、住所、氏名等から構成される住所録を記入したデータベースを、ワードを利用してタックシールに印刷する機能を応用した。ワードの「ツール」「はがきと差し込み印刷」「差し込み印刷のツールバーの表示」「宛名ラベルの作成」を開き、印刷出力すべき文書形式を指定し、荷札を表にするならばその形式も指定する。次に「差し込み印刷のツールバー」を利用して、「データーソースを開く」をクリックし、エクセルの資料データベースのファイルを選択する。次に「差し込み印刷のフィールド挿入」をクリックし印刷する項目名とその項目を印刷する場所を指定し、「差し込んだデータの表示」「複数のラベルに反映」を順にクリックし、該当する文書を１枚１枚表示しながらプリンターに出力する。右機能は、Office2016 でもメニューは少し変更があるものの、手順はほぼ同じである。

４．おわりに

【資料収集・保存と個人情報、情報公開の関係】

文化財整理カード（台帳）は、文化財の収集・保存管理の基本台帳であり、電子情報である台帳データベースの入力情報の最終的なバックアップとなるものである。電子情報は、保存デバイスにおいて経年劣化やウイルス感染等の事故が起きた時、データは瞬時に消えてしまう。これに対して、アナログ的な情報である文化財整理カード（台帳）は、防火・耐震・水害対策等保全体制が確立されていれば、半永久的に記録情報が保持されるものである。しかし、日常的な業務では利便性および情報公開での利用という点では、形式変更が容易で必要な情報のみを取り出し整形できる台帳データベースが勝れている。特に後者は、寄贈者・寄託者や寄贈・寄託日等の個人情報を非公開した、情報公開用データベースを作成するソースになる。それぞれの両者の特性を踏まえて、両者を作成、利用することが必要である[3]。

【博物館・資料館の一つのあり方として】

今日、パソコンの記録媒体の大型化と処理速度の高速化、インターネット端末としての普及により、資料の収集・保存、調査・研究、展示・教育普及活動という博物館活動は、パソコンを通しての博物館・資料館内外の情報利用により従来にはない可能性が拡がってきている。図書館・文書館・資料館など他の文化施設の保有する情報の共有も可能となる。パソコンを通して博物館・資料館が簡単に知的情報センターとなる可能性があり、その際に博物館・資料館から発信可能な情報の一つが、収蔵庫保管資料の台帳データベースを通しての情報公開にあるのではないかと、前稿で位置付けた[4]。現在もその潮流は拡大するなか、「和光市デジタルミュージアム」が開設され、その一環として「収蔵資料データベース」が公開されたのは、時流に的確な対応といえよう。

表 1　　和光市民俗資料コード表

整理番号5桁：大分類（1桁）小分類（1桁）一通し番号（3桁前ゼロ）

（2009年12月25日）

大分類		小分類			
コード	名称	コード	名称	件数	大分類割合
1	衣・食・住	a	衣服	11	
		b	装身具	26	
		c	飲食用具	56	
		d	炊事・調理用具	40	
		e	貯蔵用具	19	
		f	家具・調度品	113	
		z	その他	19	
			合計	284	25%
2	生産・生業（農・工・商）	a	農具	137	
		b	畜産用具	4	
		c	養蚕・製糸用具	28	
		d	製茶用具	7	
		e	工匠用具	129	
		f	染用具	51	
		g	織具	15	
		h	醸造用具	29	
		i	商売・商業用具	14	
		j	計算具	7	
		k	計量具	35	
		l	看板	0	
		m	鑑札	7	
		n	漁具	15	
		z	その他	10	
			合計	488	43%
3	交通・運輸・通信	a	運搬具	22	
		b	舟	8	
		z	その他	2	
			合計	32	3%
4	社会生活	a	警防、刑罰用具	2	
		b	消防	32	
		c	社会教育	17	
		d	公共事業・工事	5	
		e	贈答用具	4	
		f	近代戦争で使用された道具類	9	
		g	近代戦争時の市民生活・戦後	13	
		z	その他	2	
			合計	84	7%
5	信仰	a	祭祀具	8	
		b	奉納物	2	
		z	その他	1	
			合計	11	1%
6	芸能・娯楽・遊戯	a	遊び道具、玩具	9	
		b	楽器	3	
		z	その他	3	
			合計	15	1%
7	年中行事・人の一生	a	正月用具	10	
		b	3月節句用具	49	
		c	5月節句用具	108	
		d	盆用具	40	
		e	産育用具	0	
		f	冠婚葬祭用具	3	
		z	その他	4	
			合計	214	19%
9	その他	z	その他	19	
			合計	19	2%
			総合計	1147	100%

一覧表の並び順は①を原則としてアイウエオ順。②物、紙・写真の順。③グループ（例えばガラスケース有、無しの単位）別順。また、コード８は、将来新たな大分類が必要になった時のため、指定していない。

【註】

1. 本稿は、拙稿「歴史民俗資料台帳作成とデータベース構築の試み－シルバー人材センターの共働による基礎的自治体保管文化財資料整理の実績から－」（Museologist25 2009 年度明治大学学芸員養成課程年報 27 ～ 37 ページ　2010 年　明治大学学芸員養成課程）を参考に再論したものである。前稿（明大年報）は、文化財の専門家ではない市民との協働事業の成功裡なる完了を踏まえ、有形民俗資料（民具）の整理作業の実務について、事業完了から３か月後（脱稿は１か月後）に速報したものである。本稿は、説明不足になった点の補足や事業から数年を経て想起された私見等の解説を加え、改めて資料データベースの意義について論じた。

2. 平成 21 年 12 月 25 日に配布した文書は８～ 13 ページ（付録 1）の通り。

3. 前掲論文

4. 前掲論文

もり　ともひさ（明治大学農学部兼任講師・和光市文化財保護委員会委員）

付録１　文化財保存庫特別公開資料　和光市文化財保存庫整理の概要

文化財保存庫特別公開資料（平成２１年１２月２５日）

和光市文化財保存庫整理の概要

文化財保存庫整理指導員（明治大学兼任講師）　森（もり）　朋久（ともひさ）

和光市教育委員会生涯学習課　文化財保護担当　中岡　貴裕

１　和光市文化財保存庫について

和光市文化財保存庫は、昭和５９年１１月に開設された倉庫である。文化財保護のために設置されている唯一の保存庫であるため、和光市の歴史的な資料は基本的に文化財保存庫に収蔵されている。

その主な収蔵内容は、市民からの寄贈による民具・農具や古文書類、そして市内遺跡の発掘調査により出土した土器等の遺物である。

＜施設概要＞

名　称：和光市文化財保存庫

所在地：和光市諏訪 3-20（第四小学校敷地に隣接）

面　積：１階床面積：191.45 ㎡

２階床面積：103.88 ㎡

延べ床面積：295.33 ㎡

開　設：昭和５９年１１月

２　整理作業の流れ

７月　保存庫民俗資料の整理（資料の埃・汚れ落とし、写真撮影、台帳・データーベース作成）

８月　特別収蔵庫内古文書・典籍（星野家・本橋家・天野家・内山家など）、行政文書の整理

９月　保存庫民俗資料調査（台帳・データーベース作成）

１０月　特別収蔵庫内古文書・典籍（石田家・高野家）、収蔵庫 1F・2F 内の行政文書類の整理

１１月　特別収蔵庫内の古文書・典籍（市川家）整理、保存庫民俗資料整理（台帳・データーベースの最終調整・確定）

１２月　保存庫民俗資料の整理（保管場所の設営、保管場所への資料の搬入、公開へ向け最終調整、整理整頓）

３　民俗資料の特徴

◇ 和光市の歴史地理環境…低地（荒川・新河岸川流域）・台地・林野・宿場（白子）という特徴をもつ

→民俗資料もこの地域性に規定される

◇ 分類項目　→　別表参照

◇ 各項目内の特徴的な資料

衣・食・住

衣　　服　…蓑

装 身 具　…草鞋・下駄

飲食用具　…いずめ・掻き氷製造機・椀箱

炊事・調理用具　…切溜（きりだめ）・捏鉢（こねばち）・製麺機（せいめんき）・立臼（たちうす）

貯蔵用具　…通徳利（かよいとっくり）・酒がめ

家具・調度品　…括（くく）り枕・車長持（くるまながもち）・こて・炭火アイロン・蝿取瓶（はえとりびん）・長火鉢・箱火鉢・火鉢（陶器製）・文机（ふづくえ）・矢立（やた）て

その他　…ねずみ捕り

生産・生業

農　　具　…各種鍬（くわ）・すき・漏斗（じょうご）・吸子（すいこ）・千歯扱（せんばこき）・田打車（たうちぐるま）・田舟（たぶね）・唐箕（とうみ）・にんじん洗機（あらいき）・にんじんたわし・フリコミ・掘棒（ほりぼう）・馬鍬（まんが）・万石通（まんごくどおし）・麦打ち台（むぎうちだい）・

畜産用具　…飼葉切り（かいばき）・搾乳機（さくにゅうき）

養蚕・製糸用具　…揚枠（あげわく）・糸繰枠（いとぐりわく）・桑扱器（くわこきき）・座繰器（ざぐりき）・ふわり・蔟織器（まぶしおりき）

製茶用具　…茶甕（ちゃがめ）・まんじゅう

工匠道具　…瓦製造道具・桶製造道具・舟大工道具・草鞋作り台

染 用 具　…染物型紙

織　　具　…筬（おさ）・杼（ひ）

醸造用具　…酒造用具

商売・商業用具　…銭箱（ぜにばこ）・帳場硯箱（ちょうばすずりばこ）

計 算 具　…計算機・ソロバン

計 量 具　…竿秤（さおばかり）・台秤（だいばかり）・斗枡（とます）・斗掻き棒（とかぼう）

看　　板　…草刈証（くさかりしょう）・小売行商鑑札（こうりぎょうしょうかんさつ）

漁　　具　…筌（うけ）・魚岡持ち（さかなおかも）・タモ網（あみ）・魚篭（びく）

交通・運輸・通信

運 搬 具　…鞍（くら）・ハモ・背負子（しょいこ）・配達籠（はいたつかご）・リヤカー

舟　…ざっぱ舟・アカトリ・神楽桟（かぐらさん）

社会生活

警防、刑罰用具	…火の用心用具・ヤタク
消　　防	…鳶口（とびくち）・掛矢（かけや）・竜吐水（りゅうどすい）・腕用（わんよう）ポンプ
社会生活	…印鑑
公共事業	…（明治４４年堤防工事関係文書・写真）
贈答用具	…記念品
近代戦争で使用された道具類	…ゲベール銃・ヘルメット
近代戦争時の市民生活・銃後	…慰問袋（いもんぶくろ）・国民服

信仰

祭 祀 具	…神輿（みこし）・山車（だし）
奉 納 物	…扁額絵馬（へんがくえま）

芸能・娯楽・遊戯

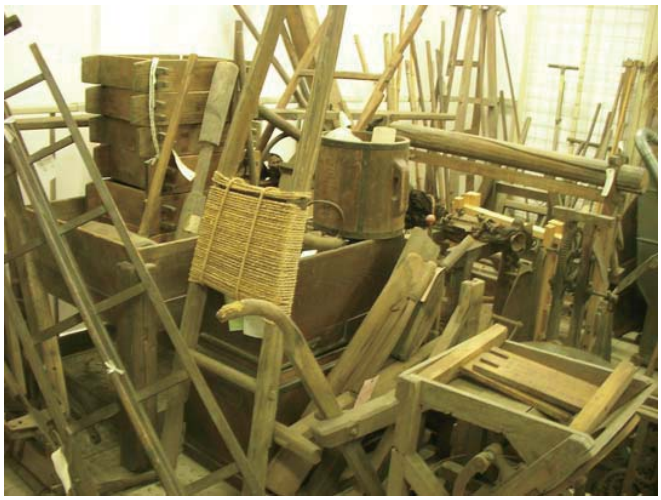
遊び道具・玩具	…鳥籠
楽　　器	…尺八

年中行事

正月用具	…羽子板
３月用具	…雛人形
５月用具	…五月人形・こいのぼり
盆 用 具	…掛け軸

文化財保存庫整理事業（H21.7.1～12.25）

整理前
～before～



文化財保存庫整理事業（H21.7.1～12.25）

整理後
～after～

文化財保存庫整理事業（H21. 7. 1～12. 25）

整理中
～on the way～

吹上貝塚のフィルム整理（覚書）

安井　翠

1. はじめに

昭和 30 年代に、和光市（当時の大和町）では、埼玉県下でも比較的早い時期から、発掘調査が行われていた。その調査内容は、『大和町のむかし　吹上貝塚』として昭和 34 年発行され、『和光市史　史料編 1』にも再録されている。その際に撮影された写真フィルムは、今まで見当たらない状況であったが、文化財保存庫の整理をしている際に、歴史的保存文書の中に紛れ込んだ状態となっていたものを約 140 枚、発見することができた。

本稿の目的は、発見された吹上貝塚のフィルムを対象に、簡易的な整理保存作業を進め公開すること及び『大和町のむかし　吹上貝塚』や『和光市史　史料編 1』に掲載されている写真と今回見つけたフィルムを照らし合わせ表にまとめ、今後、写真を利用できるようにすることである。

2. 検出状況・保存方法

テープ・フィルムと書かれた再利用の封筒（図 1）に、フィルム 7 箱、テープ 2 箱が入っていた（表 1・2　図 2 ～ 10）。中のフィルムを確認したところ、和光市の遺跡、建物・景色が撮影されていたものであった。吹上貝塚や城山遺跡の現場の様子や整理済みの出土遺物、製図した平面図の写真に加え、大和町の当時の様子、吹上観音（茅葺）、代官屋敷、鎌倉街道、笹目橋など建物・景色の写真が保存されていた。数多くあったフィルムの中から、今回は、吹上貝塚に関するフィルム 30 枚を整理・報告の対象とすることにする。

箱の中のフィルムは、混然としていたため、箱とフィルムのメーカーを一致させ、フィルムに書かれている印字番号あるいは手書き番号順に並べ替えた。フィルムのサイズはすべて 35mm で、一部破損が見られるものもあるがおおむね良好である。

また、フラットベッドフィルムスキャナにより加工しやすい JPEG と、画質がよく保存に適している TIFF の 2 種類のデータを作成し、それを DVD-R に保存する。

表 1　フィルム検出状況

図	箱の種類	写真の内容	枚数
2	青色の FUJI COLOR	吹上貝塚や城山遺跡の発掘記録	18 枚
3	青色の FUJI COLOR	吹上貝塚の発掘記録	16 枚
4	オレンジ色の FUJI COLOR	家や建物	19 枚
5	オレンジ色の FUJI COLOR	朝霞地区視聴覚研究部が昭和 35 年 1 月に発表したスライド。家や建物	19 枚
6	黄緑色の FUJI COLOR	風景・モノ	19 枚
7	オレンジ色の SAKURA COLOR	発掘土器	23 枚
8	赤色の SAKURA COLOR	風景・モノ	22 枚
		合計	136 枚

図１　再利用された封筒

図２　吹上貝塚や城山遺跡の発掘記録

図３　吹上貝塚の発掘記録

図４　家や建物

図５　朝霞地区視聴覚研究部作成

図６　風景・モノ

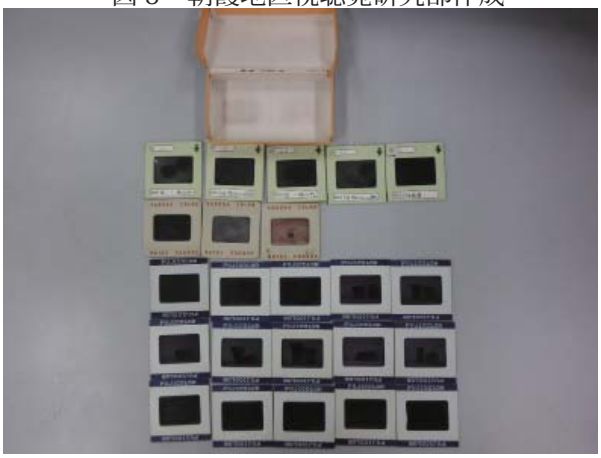


図７　発掘土器

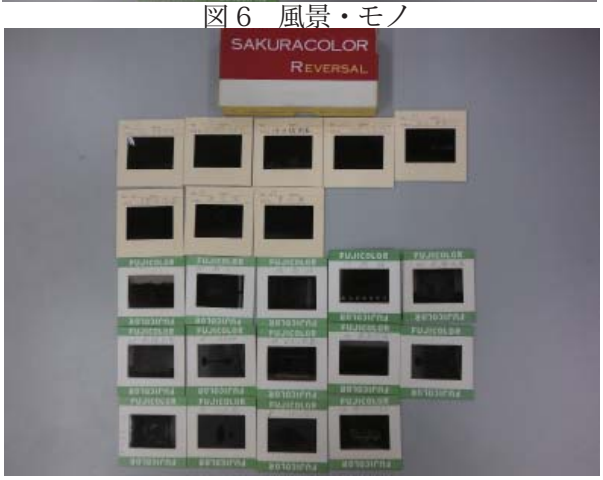


図８　風景・モノ

表２　テープの検出状況

図	箱の種類	テープの内容
9	Soni-Tape　緑	朝霞班視聴覚ライブラリー
10	Soni-Tape　赤	不明

図９　朝霞班視聴覚ライブラリー

図 10　不明

3. 吹上貝塚の概要

和光市内では現在 43 ヶ所の遺跡が確認されている。吹上貝塚は、和光市駅から北東約 1.5km に位置し、吹上遺跡の中の一つである（図 11）。荒川の右岸に発達した沖積平野に面して形成された武蔵野台地の東端部に位置し、南北に延びる細長い小支丘状を呈している。沖積地面との比高差は約 18 m である。

吹上貝塚の調査は、昭和 34 年に行われた。地点をＡ地点、Ｂ地点と２つに分け、縄文時代中期住居跡が３軒検出した。Ａ地点では、第１号住居・第２号住居が検出され、Ｂ地点では第３号住居１軒が検出された。なお、この吹上貝塚の調査がきっかけとなり、後に小林達雄氏により「吹上パターン」が提唱されたことで知られている。

図 11　吹上遺跡測量位置図

4. 吹上貝塚写真紹介

今回整理した写真を表３にまとめた。また、スキャンした写真については図 12 ～ 41 として掲載する。なお、図の表記は、マウントや『和光市史　史料編 1』、『大和町のむかし　吹上貝塚』に記載されていたとおりとする。ただし、重複して写真が掲載されいる場合は、マウント、和光市史、大和町のむかしの順に優先とした。

表３　吹上貝塚の写真一覧

図	マウント記載	和光市史記載	大和町のむかし記載	写真から推測	マウント	印字番号	手書き番号	対応箇所
12		第3号住居跡貝層			FUJI COLOR	12	23	和光市史史料編　p136 図版40
13				下層の体積状況	FUJI COLOR	16	24	
14		B地点出土状態	B地点（第3号住居跡）第2～3層における土器出土状況		FUJI COLOR	18	39	
15				第2号住出土状況	FUJI COLOR	20	8	
16				A地点第2号住炉	FUJI COLOR	21	7	
17				全体風景	FUJI COLOR	22	4	
18	A地点2住炉				SLIDE HOLDER	12	12	
19	A地点Ｉ住居2層土器	第1号住居跡遺物出土状況	A地点第2層に於ける土器出土状態		SLIDE HOLDER		13	和光市史史料編　p139　図版41
20	1住2層土器				SLIDE HOLDER		16	
21	第3住4区3層鹿骨				SLIDE HOLDER		25	
22	3住4区2～3層土器	B地点出土状態	B地点（第3号住居跡）第2～3層における土器出土状況		SLIDE HOLDER		26	大和町のむかし　図版2
23	B地点3住炉	第3号住居跡炉址			SLIDE HOLDER		30	
24	3住埋められている柱穴				SLIDE HOLDER	14	33	
25	3住埋められている柱穴				SLIDE HOLDER	17	31	
26	3住埋められている掘った所				SLIDE HOLDER	18	32	
27	3住埋められている掘った所	第3号住居跡の拡張			SLIDE HOLDER		34	
28	3住周溝	第3号住居跡の拡張			SLIDE HOLDER	34	36	
29				大和町吹上貝塚スライド	SAKURA COLOR		1	
30			6千分の1地図		SAKURA COLOR		3	大和町のむかし　p7　第2図
31		遺跡全体測量図	遺跡全体測量図		SAKURA COLOR		6	和光市史史料編　p138　第40図 大和町のむかし　p12　第3図
32		第1号住居跡（左）、第2号住居跡（右）実測図	第1号住居跡（左）、第2号住居跡（右）実測図		SAKURA COLOR		9	和光市史史料編　p140　第41図 大和町のむかし　p13　第4図
33				吹上遺跡第1･2号住居跡	SAKURA COLOR		10	
34				吹上遺跡第1･2号住居跡	SAKURA COLOR		11	
35				吹上遺跡第3号住居土層断面図･実測図	SAKURA COLOR		27	
36				吹上遺跡第3号住居跡	SAKURA COLOR		28	
37				柱穴	SAKURA COLOR		29	
38		吹上遺跡第3号住居跡の拡張	第3号住居跡の逐次拡張されたことを示す諸遺構		SAKURA COLOR		35	和光市史史料編　p153　図版48 大和町のむかし　図版5
39				吹上遺跡第3号住居跡	SAKURA COLOR		37	
40				最終スライド	SAKURA COLOR		53	
41	吹上住居地跡				SAKURA FILM		1	

図 12　第 3 号住貝層

図 13　下層の体積状況

図 14　B 地点出土状態

図 15　第 2 号住出土状況

図 16　A 地点第 2 号住炉

図 17　全体風景

図 18　A 地点 2 住炉

図 19　A 地点 I 住居２層土器

図 20　１住２層土器

図 21　第３住４区３層鹿骨

図 22　３住４区２～３層土器

図 23　B 地点３住炉

図 24　３住埋められている柱穴

図 25　３住埋められている柱穴

図 26　３住埋められている掘った所

図 27　3 住埋められている掘った所

図 28　3 住周溝

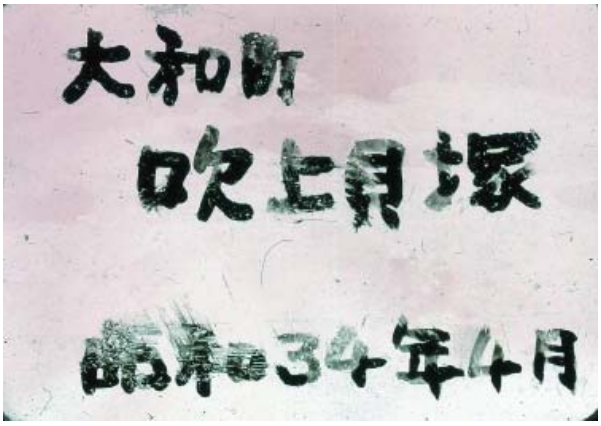


図 29　大和町吹上貝塚スライド

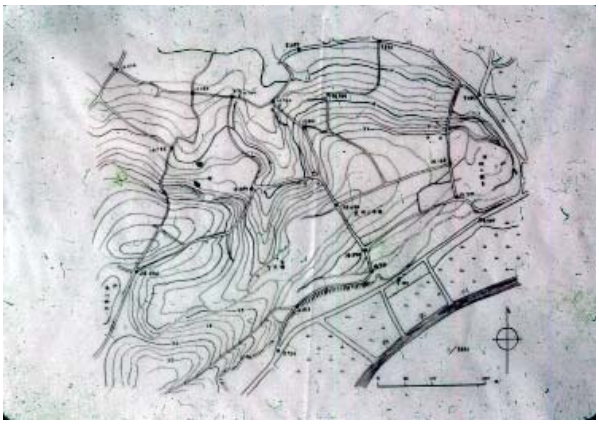


図 30　6 千分の 1 地図

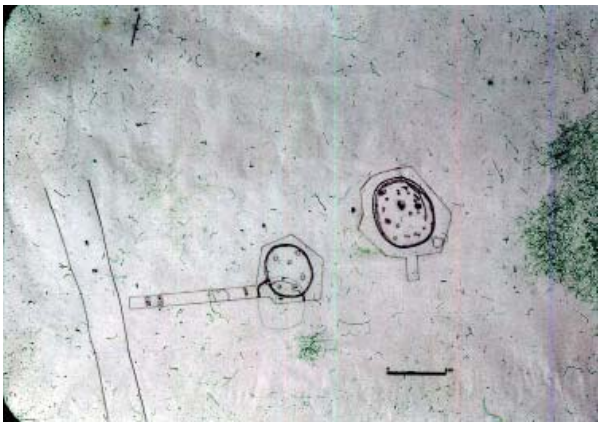


図 31　遺跡全体測量図

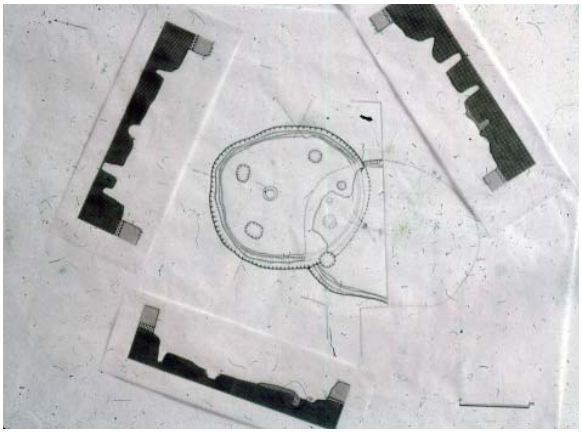


図 32　第 1 号住居跡（左）第 2 号住居跡（右）
実測図

図 33　吹上遺跡第 1・2 号住居跡

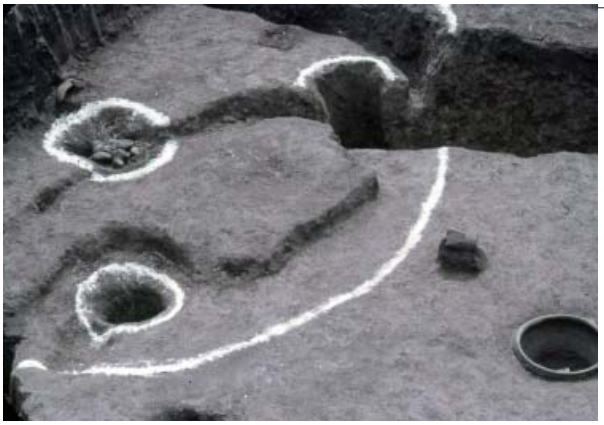


図 34　吹上遺跡第 1・2 号住居跡

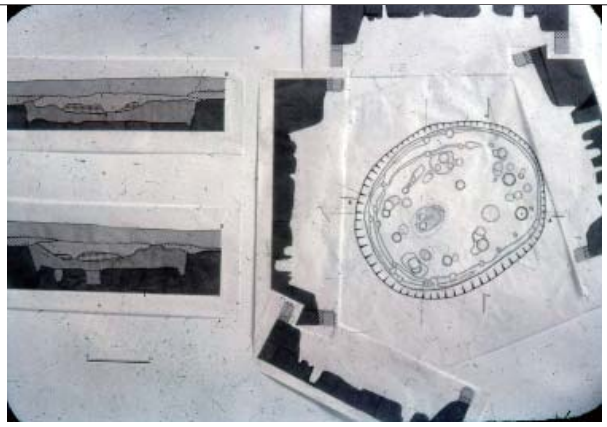


図 35　吹上遺跡第 3 号住居土層・断面図・実測図

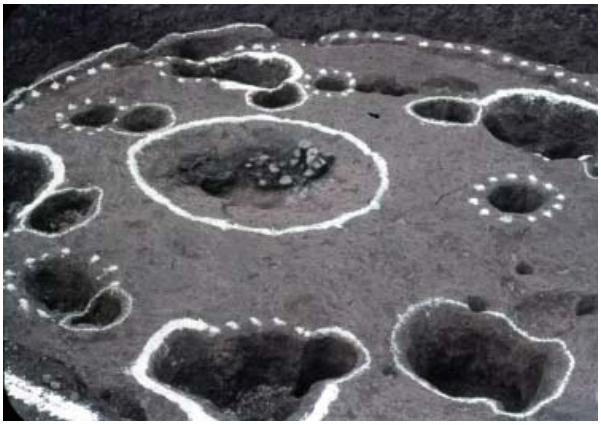


図 36　吹上遺跡第 3 号住居跡

図 37　柱穴

図 38　吹上遺跡第 3 号住居跡の拡張

図 39　吹上遺跡第 3 号住居跡

図 40　最終スライド

図 41　吹上住居地跡

5. まとめ

以上、歴史的文書に紛れた約 140 枚のフィルムの中から吹上貝塚のフィルム 30 枚を対象に、簡易的な整理・保存作業を行った。その結果、吹上貝塚のフィルムは、発掘調査時に撮影された記録写真や昭和 30 年代に作成された資料であることがわかった。

『和光市史　史料編 1』や『大和町のむかし　吹上貝塚』で公開されている写真や今まで公開されていなかった写真をフィルムからスキャンし、データとしてデジタルミュージアム「れきたま」で公開することで、様々な方面から活用できる形となったと思う。これからも、少しずつ整理作業を進め、今回公開することができなかったフィルムも紹介して行きたい。

【引用・参考文献】

兼子順ほか　2015 「埼玉県新聞社撮影報道写真フィルムの整理と公開」『文書館紀要』第 28 号　埼玉県立文書館

小林達雄　2016「吹上貝塚とその時代－市制施行 45 周年記念特別展『出土遺物の交流と結』記念講演」『和光市デジタルミュージアム紀要』第 2 号　和光市教育委員会

竹石健二ほか　1990『吹上遺跡－ A 地区－』　和光市埋蔵文化財調査報告書第 4 集　和光市遺跡調査会・和光市教育委員会

鈴木一郎　2015「和光市出土と見られる「埼玉県立博物館」から返却された遺物について（覚書）」『和光市デジタルミュージアム紀要』第 1 号　和光市教育委員会

谷井彪ほか　1981『和光市史　史料編 1』　和光市

柳田敏司ほか　1959『大和町のむかし　吹上貝塚』郷土誌資料第 3 集　大和町教育委員会

やすい　あきら（和光市教育委員会）

和光市市制施行45周年記念特別展
「出土遺物の交流と結（ゆい）」
‐ 自治体間相互応援協定締結20周年記念 ‐ の記録

鈴木　一郎

1. はじめに

展示会の経緯と経過

生涯学習課文化財保護担当では、2～3年に1度の周期で、文化財の展示会を開催している。近年は、土地区画整理に伴う大規模な発掘調査が行われ、新たな発見や数多くの土器が発掘されていることから、当初は、平成27年度開催の展示会は、「最新出土品展」を漠然と平成26年夏に考えていた。実際の平成27年度予算積算時に、平成27年度は和光市制施行45周年であることから市全体の周年記念事業の一環として展示会を行うこととなった。

企画段階において周年記念事業なので、全体的に祝賀ムードを盛り上げるため、和光市のみならず、近隣市や友好都市まで含めた展示会とし、新潟県十日町市の国宝で有名な笹山遺跡の火焔型土器を展示できないかとの話も持ち上がった。以下、経過を時系列でまとめる。

2. 平成26年度の準備

上記の経過のとおり「最新出土品展」のテーマから考え直し、十日町市の火焔型土器等を展示することを検討した。

国宝の土器は、借用展示が困難であるため[1]、国宝指定以外の火焔型土器の借用展示を考えた。電話で十日町市に問合せたところ、国宝と同等の文様構成の土器もほかにあるので、貸し出しできる旨の話を頂いた。

ここで展示テーマを改めて再考することとした。通常の特別展の展示は、自身の自治体で所有・所管・所在している資料を基幹としたり導入的要素として「テーマ」を決め、そこから関連する資料の選択と借用の打診、正式借用となる流れである。しかし、今回は、「市制施行45周年」、「友好都市の火焔型土器」を要素として取り入れ、自治体間相互応援協定を締結しているほかの友好都市も踏まえ「遺物の移動や交流」をテーマとして考えた。会場は、和光市民文化センター企画展示室と展示ホールとした。期日は、11月初旬に市民まつりなどの予約が既に入っており、連続して使用できる、平成27年11月19日（木）～12月6日（日）が開催期日となった。会場借り上げは、仕込みに前2日、片付けに後1日を予約した。

上記に併行して資料借用予定の新潟県十日町市、長野県佐久市、栃木県那須烏山市、埼玉県東松山市、朝霞市、志木市、新座市などに借用の打診連絡を行った。その後、各自治体の遺跡調査報告書を元に、借用候補の選出を行う。候補は、火焔型土器と同時期の縄文土器、その次は、和光市の出土品と関連がある遺物で、櫛描簾状文系統の弥生土器や移動・交易が窺えるヒスイ、ガラス質安山岩、黒曜石のほか古代の官衙に伴う遺物などを対象とした。

3. 平成27年度の準備

平成27年度は、展示予定遺物一覧を含めた展示会開催要項を確定し、借用予定遺物のコピーを付け各市へ送付した。それと共に、電話連絡し5月から6月にかけて挨拶と遺物・遺跡の下見を兼ねた現地確認を行った[2]。現地では、借用予定土器を実見して、破片復元の土器か完形の土器かを確認し簡易な写真撮影を行い、借用土器を決定した。その他展示会に伴う講演会の講師の打診も合わせて行った。下見後、正式に借用依頼書と記念講演会の講師依頼書を送付した。

7月から8月は、借用遺物の個数、大きさが決まったことで、展示品運送業務委託の仕様書を作成し、入札準備を行う。同じく展示用ガラスケース借上げの仕様書を作成し入札準備を行

う。主な借用遺物が決まったことで、ポスター・パンフレットの割付などを行う。ポスター・チラシ・パンフレット３点セットで印刷業者を選択し、仕様書ではポスターとチラシ・パンフレットの表紙は同じ写真とデザインにする（日時や説明文は若干異なる）。ポスター・チラシは早く納品させ、パンフレットは開催日直前の納品とした。

９月から10月は、「展示ケース等借上げ」の指名競争入札が、９月24日に行われ、業者が決定した[3]。

「展示品運送業務委託」については、当初美術品梱包輸送技能取得士試験２級以上を持つ専門スタッフと仕様に入れたが、入札参加業者からの質疑により技能資格を持つ者が対象事務所にはいないため、同等の技能を持つ５年以上の経験者と切り替えた。その他、賠償責任保険の質疑もあり、掛け金の算出のために、借用都市の文化財担当へ連絡をとり、土器の補修費を各指名業者へ連絡した[4]。次回から仕様書には、賠償責任保険の補償額を記載する必要がある。

「ポスター・チラシ」が先にできあがり、関係所管及び博物館・資料館へ発送し周知を図る。

ポスター（図１）は、「出土遺物の交流と結」－自治体間相互応援協定締結20周年記念－の題名から、友好都市との交流と大古の遺物の移動や同系統の土器の関係が判るように地図の友好都市のそばに遺物を配置し、円想を配した[5]。

展示会での受付・案内兼用の臨時職員（パートさん）の採用と出勤シフト割り、担当職員の土日出勤シフトの調整のほか、美術品専用運搬車と借用先の施設の調整などを行う[6]。

写真パネル、展示解説パネル、キャプションなどは、パソコンにより編集・出力を行い、のり付き発泡パネルに貼り付け、全て手作りで行った。

４．開催・展示

展示会場は、企画展示室と展示ホールからなるが、横長のガラスケースが大小２箇所据付けられている展示ホールをメイン展示場として、企画展示室を小テーマ展示として展開した。

展示ホールは、出入り口が２箇所あるが、人の流れを考え、市役所事務棟側を入口・受付とし、横書き表題、写真、あいさつパネルなどを設置（図2-1）独立ガラスケースの火焔型土器をアイキャッチとして、あいさつボード横に展示した（図2-2）が、火焔型土器全体を一周り見たいとの要望があり、会場内ロビーに独立で一周見られるように移動した。

展示ホール右手の最初の据付けガラスケース小（長さ4.7ｍ）内には、十日町市出土火焔型土器、那須烏山市出土大木系加曾利Ｅ古手土器、佐久市出土焼町式土器、志木市出土勝坂式土器の縄文時代中期の派手な文様の土器を集め、展示した（図3）。和光市出土の縄文時代中期土器は振り向いた反対側（入り口から左手）のテーブル上に露出展示した。盗難・いたずらを危惧しテグスを張り、内部に鈴を入れた（図4）。

展示室内は、移動・交流を小テーマとし、借上げた個別のガラスケースを用い、黒曜石ガラス質黒色安山岩の流通、各都市出土ヒスイなどの実物の他、原産地写真パネル・地図・写真、原産地同定済みの黒曜石（図5-1,2,3）、越後と南東北が分布圏の三十稲場式土器を十日町市と和光市出土の２点を並べて展示した（図6）。稲荷山古墳の鉄剣レプリカと東松山市出土の三角縁神獣鏡レプリカで西日本からの影響を少し示した。企画展示室は、11 × 17ｍの187㎡の部屋であるが、展示パネルで半分に仕切り、パネルの後ろは、荷物・梱包財置き場のバックヤードとした。展示パネルで区切った小スペースには、十日町市、那須烏山市、佐久市、東松山市、新座市、和光市の観光パンフレットや自治体間の交流事業の写真パネルの展示を行った。

展示ロビーに戻ると右手の据付ガラスケース大（長さ12.3ｍ）に佐久市出土の信州の櫛描

廉状文の弥生中期土器（栗林式）、同じ文様系統の東松山市の櫛描廉状文の弥生土器（岩鼻式）、和光市・朝霞市の櫛描廉状文の弥生土器を展示し（図 7-1,2）、東松山市の西日本からの影響がある古墳時代前期の土器や埼玉県内で製作されたとみられる埴輪などを展示した。

このガラスケースと対比するように、左手側には、和光市出土の弥生時代後期前葉の櫛描簾状文の土器のほか、東海地方の疑似縄文が施され菊川式の影響を受けている後期中葉土器と古墳時代前期の土器を展示した（図 8）。

奈良・平安時代は、佐久市の官衙的遺跡出土の円面硯、墨書土器、鉈尾（帯金具）、和光市出土の円面硯、墨書土器、刀子、巡方（帯金具）、新座市出土の須恵器坏、那須烏山市出土の須恵器坏、官衙遺構の写真、古代東山道の写真パネルなどでまとめた（図 9-1,2）。

据付ガラスケース大の最後尾には、和光市と各都市の防災協定の協定書と調印式の写真を展示した。

5. 記念講演会

展示会に伴い、記念講演会を、会期中の平成 27 年 11 月 29 日（日）別棟の和光市民文化センター小ホールにて開催した。

午前 10：15 から「吹上貝塚とその時代」と題した小林達雄國學院大學名誉教授の記念講演があり[7]、午後 1：15 からは、各都市の担当者から展示遺跡の説明と遺物の説明などスライドを交えた報告会を行った。参加者からは「他県の展示品を見られ、その説明が聞けて非常に良くわかりためになった」などの意見を多数いただいた。

記念講演会は、遅滞なく盛況のうちに終了した。この講演会のバックヤードでは、講演会場の受付、避難誘導員、記録写真撮影、講師案内、司会進行など少数のスタッフが何役も兼務し、非常にタイトなスケジュールであった。

6. おわりに

今回の展示会は、初めに市制施行記念の冠があり、友好都市との交流の中で、ほかの都市の土器も展示できないか、特に国宝で有名な火焔型土器を借りることはできるのかなどのがテーマの下敷きにあった。友好都市のとの交流がテーマであるため、似たもの（器形・文様）、移動してきたもの（文様系統）、交易してきたもの（特別な石材）などを考え、「出土遺物の交流と結」との題名となった。

十日町市では、笹山遺跡出土の火焔型土器が国宝に指定されており、一般の方にも良く知れれている土器である。国宝の借用には、「国宝、重要文化財又は重要有形民俗文化財の出土品及び公開に関する規則」により借用は難しいと考えられた。十日町市の遺跡の発掘調査報告書を見ると、ほかの遺跡でも火焔型土器が多数出土しているので、確認したところ、「笹山遺跡出土土器で国宝と同等の火焔型土器もあり、そちらなら貸し出し可能。」との話があった。修復時期が前後したため、国宝指定となっていない土器があり、十日町市の手続きだけで貸し出しができる土器も必要として、国宝指定を行っていない土器をお借りすることができた。

友好都市の交流と火焔型土器から「出土遺物の交流と結」との題名の展示会を開催し、18 日間の開催で延べ 3,414 人の見学者が訪れたことは、手前味噌であるが良かった展示ではないかと思う。

【註】

1. 国宝重要文化財は、重要有形民俗文化財の出品及び公開に関する規則第 5 条第 6 項により、文化庁長官の承認を受けた博物館あるいは、その他の施設でないと公開できないため。

2. 挨拶と資料調査は、6/2 朝霞、6/2 志木、6/5 十日町市、6/10 さきたま史跡の博物館鉄剣・東松山埋蔵文化財センター、6/26 佐久市、6/30 那須烏山市、6/24 新座市と各都市への挨拶と資料調査が 6 月になってしまい、和光市も相手都市も 6 月の議会対応で忙しい時期の訪問であった。

3.　4 社指名した内 2 社が辞退。落札価格 462,000 円で決定した。
4. 保険金査定は、指定文化財においては、売買が成立しないため金銭的価値が 0 円となるため、割れた場合の修復費用を査定額とした。4 社指名した内 1 社が辞退。落札価格は 918,380 円で決定した。対象遺物の保険額は 100 万近くから 15 万までの金額差が有る。この賠償保険は、運送する展示品が対象となるため、近隣市から借入する土器については対象外となるため、近隣から職員の梱包搬送で借りてくる遺物に対しては、梱包から緊張した。
5.　禅における書画のひとつで、今日は友好な都市のつながり（結）と交わりを意識した。
6. 展示品運送業務委託は、期間　平成 27 年 11 月 5 日～ 12 月 15 日までの間に、借用・返却の梱包、運送を 4 地点で 3 往復する契約である。ちょうど、秋季の展示会と重なるため、借用先と美術品運搬専用車の日程調整に苦労した。
7. 考古学史でも知られている「吹上パターン」を提唱した小林先生の講演録は、『和光市デジタルミュージアム紀要』第 2 号（2016）に収録済み。

すずき　いちろう（和光市教育委員会）

事業記録
・会場　和光市民文化センター企画展示ホール
・会期　平成27年11月19日(木)
　　～12月6日(日)、(18日間開催)
・会場借上期間　平成27年11月17日(火)
　　～12月7日(月) 21日間
・見学者数　延べ3414人
　　(1日平均189.6人)
・展示資料　211点(表1展示資料目録)
・記念講演会
　平成27年11月29日(日)
　和光市民文化センター小ホール
　講師　小林達雄(國學院大學名誉教授)
　　菅沼　亘(十日町市職員)
　　小林眞寿(佐久市職員)
　　鈴木芳英(那須烏山市職員)
　参加者　138人
・印刷物
　ポスターA3判(4色)　100枚
　チラシ A4判両面(表4色・裏1色)　2000枚
　パンフ A4判16ページ(全4色)　1500部

No.	資料	時期	遺跡・遺構等	所有・保管	備考
1	火焔型土器	縄文時代中期	笹山遺跡	十日町市博物館	【市指定文化財】
2	王冠型土器	縄文時代中期	笹山遺跡	十日町市博物館	【市指定文化財】
3	火焔型土器	縄文時代中期	野首遺跡	十日町市博物館	
4	王冠型土器	縄文時代中期	野首遺跡	十日町市博物館	
5	深鉢形土器	縄文時代後期	野首遺跡	十日町市博物館	（三十稲場式）
6	ヒスイ加工品	縄文時代中期	梶花遺跡	十日町市博物館	
7	深鉢形土器	縄文時代中期	寄山遺跡	佐久市教育委員会	（焼町土器）
8	壺形土器	弥生時代中期	根々井芝宮遺跡	佐久市教育委員会	
9	甕形土器	弥生時代中期	根々井芝宮遺跡	佐久市教育委員会	
10	甕形土器	弥生時代中期	根々井芝宮遺跡	佐久市教育委員会	
11	甕形土器	弥生時代後期	北西ノ久保遺跡	佐久市教育委員会	
12	壺形土器	弥生時代後期	北西ノ久保遺跡	佐久市教育委員会	
13	壺形土器	弥生時代後期	西一本柳遺跡	佐久市教育委員会	
14	壺形土器	弥生時代後期	西一本柳遺跡	佐久市教育委員会	
15	須恵器　円面硯	平安時代	聖原遺跡	佐久市教育委員会	
16	須恵器　坏	平安時代	聖原遺跡	佐久市教育委員会	（墨書土器）
17	帯金具　巡方	平安時代	聖原遺跡	佐久市教育委員会	
18	帯金具　丸鞆	平安時代	聖原遺跡	佐久市教育委員会	
19	帯金具　鉈尾	平安時代	聖原遺跡	佐久市教育委員会	
20	帯金具　丸鞆	平安時代	聖原遺跡	佐久市教育委員会	
21	石槍（ガラス質黒色安山岩）	旧石器時代	八風山遺跡群	佐久市教育委員会	
22	石槍（ガラス質黒色安山岩）	旧石器時代	八風山遺跡群	佐久市教育委員会	
23	ナイフ形石器（黒曜石：和田鷹山）	旧石器時代	八風山遺跡群	佐久市教育委員会	
24	削器（黒曜石：和田鷹山）	旧石器時代	八風山遺跡群	佐久市教育委員会	
25	石核（黒曜石：蓼科冷山）	旧石器時代	八風山遺跡群	佐久市教育委員会	
26	石核（黒曜石：蓼科冷山）	旧石器時代	八風山遺跡群	佐久市教育委員会	
27	ガラス質黒色安山岩　原石	-	八風山遺跡群	佐久市教育委員会	
28	深鉢形土器	縄文時代中期	新道平遺跡	那須烏山市教育委員会	
29	深鉢形土器	縄文時代中期	新道平遺跡	那須烏山市教育委員会	
30	深鉢形土器	縄文時代中期	新道平遺跡	那須烏山市教育委員会	
31	硬玉（ヒスイ）製　垂飾	縄文時代中期	新道平遺跡	那須烏山市教育委員会	
32	須恵器　坏	平安時代	長者ケ平官衙遺跡	那須烏山市教育委員会	
33	須恵器　坏	平安時代	長者ケ平官衙遺跡	那須烏山市教育委員会	
34	甕形土器	弥生時代後期	岩鼻遺跡	東松山市教育委員会	（岩鼻式）
35	甕形土器	弥生時代後期	岩鼻遺跡	東松山市教育委員会	（岩鼻式）
36	甕形土器	弥生時代後期	岩鼻遺跡	東松山市教育委員会	（岩鼻式）
37	甕形土器	弥生時代後期	高坂二番町遺跡	東松山市教育委員会	（吉ヶ谷式）
38	壺形土器	古墳時代前期	五領遺跡	東松山市教育委員会	
39	台付甕形土器	古墳時代前期	五領遺跡	東松山市教育委員会	
40	壺形土器	古墳時代前期	五領遺跡	東松山市教育委員会	（東海地方西部系）
41	壺形土器	古墳時代前期	五領遺跡	東松山市教育委員会	（畿内系）
42	人物埴輪	古墳時代	上松本遺跡下松５号墳	東松山市教育委員会	
43	三角縁陳氏作四神二獣鏡（複製）	現代（複製）	高坂古墳群出土資料の複製	東松山市教育委員会	
44	ヒスイ輝石（原石標本）	-	糸魚川市小滝川採取	朝霞市教育委員会	
45	甕形土器	弥生時代後期	稲荷山・郷戸遺跡	朝霞市教育委員会	
46	朝顔形埴輪	古墳時代	柊塚古墳	朝霞市教育委員会	
47	円筒埴輪	古墳時代	柊塚古墳	朝霞市教育委員会	
48	人物埴輪	古墳時代	柊塚古墳	朝霞市教育委員会	
49	硬玉（ヒスイ）製　大珠	縄文時代中期	西原大塚遺跡	志木市教育委員会	
50	深鉢形土器	縄文時代中期	西原大塚遺跡	志木市教育委員会	
51	深鉢形土器	縄文時代中期	西原大塚遺跡	志木市教育委員会	
52	深鉢形土器	縄文時代中期	西原大塚遺跡	志木市教育委員会	
53	ナイフ形石器	旧石器時代	西原大塚遺跡	志木市教育委員会	
54	剥片（ガラス質黒色安山岩）	旧石器時代	西原大塚遺跡	志木市教育委員会	
55	剥片（ガラス質黒色安山岩）	旧石器時代	西原大塚遺跡	志木市教育委員会	
56	剥片（ガラス質黒色安山岩）	旧石器時代	西原大塚遺跡	志木市教育委員会	
57	剥片（ガラス質黒色安山岩）	旧石器時代	西原大塚遺跡	志木市教育委員会	
58	須恵器　坏	平安時代	駒形遺跡	新座市教育委員会	
59	須恵器　坏	平安時代	駒形遺跡	新座市教育委員会	
60	須恵器　坏	平安時代	駒形遺跡	新座市教育委員会	
61	須恵器　坏	平安時代	駒形遺跡	新座市教育委員会	
62	瓦	平安時代	駒形遺跡	新座市教育委員会	
63	稲荷山古墳出土金錯銘鉄剣（複製）	現代（複製）	稲荷山古墳	埼玉県立さきたま史跡の博物館	
64	深鉢形土器（ダイズ属の種子混入）	縄文時代中期	越後山遺跡（2次）	和光市教育委員会	
65	深鉢形土器	縄文時代中期	越後山遺跡（2次）	和光市教育委員会	
66	深鉢形土器	縄文時代中期	越後山遺跡（2次）	和光市教育委員会	
67	深鉢形土器	縄文時代中期	越後山遺跡（2次）	和光市教育委員会	
68	炉体土器	縄文時代中期	妙蓮寺遺跡（5次）	和光市教育委員会	
69	深鉢形土器	縄文時代中期	妙蓮寺遺跡（4次）	和光市教育委員会	
70	深鉢形土器	縄文時代中期	妙蓮寺遺跡（4次）	和光市教育委員会	
71	深鉢形土器	縄文時代中期	妙蓮寺遺跡（4次）	和光市教育委員会	
72	深鉢形土器（獣面付）	縄文時代中期	妙蓮寺遺跡（5次）	和光市教育委員会	

No.	資料	時期	遺跡・遺構等	所有・保管	備考
73	深鉢形土器（獣面or人面付）	縄文時代中期	吹上原遺跡（2次Ａ区）	和光市教育委員会	
74	深鉢形土器	縄文時代中期	吹上原遺跡（2次Ａ区）	和光市教育委員会	
75	深鉢形土器	縄文時代中期	吹上原遺跡（2次Ａ区）	和光市教育委員会	
76	浅鉢形土器	縄文時代中期	吹上原遺跡（2次Ａ区）	和光市教育委員会	
77	浅鉢形土器	縄文時代中期	吹上原遺跡（3次Ａ区）	和光市教育委員会	
78	深鉢形土器	縄文時代中期	吹上原遺跡（2次Ａ区）	和光市教育委員会	
79	深鉢形土器	縄文時代中期	吹上原遺跡（2次Ａ区）	和光市教育委員会	
80	深鉢形土器	縄文時代中期	吹上原遺跡（2次Ａ区）	和光市教育委員会	
81	炉体土器	縄文時代中期	吹上原遺跡（2次Ａ区）	和光市教育委員会	
82	深鉢形土器	縄文時代中期	吹上原遺跡（2次Ａ区）	和光市教育委員会	
83	深鉢形土器	縄文時代中期	吹上原遺跡（2次Ａ区）	和光市教育委員会	
84	深鉢形土器	縄文時代中期	吹上原遺跡（2次Ａ区）	和光市教育委員会	
85	深鉢形土器	縄文時代中期	吹上貝塚（昭和34年調査）	和光市教育委員会	
86	深鉢形土器	縄文時代中期	吹上貝塚（昭和34年調査）	和光市教育委員会	
87	深鉢形土器	縄文時代中期	吹上貝塚（昭和34年調査）	和光市教育委員会	
88	深鉢形土器	縄文時代中期	吹上貝塚（昭和34年調査）	和光市教育委員会	
89	深鉢形土器	縄文時代中期	吹上貝塚（昭和34年調査）	和光市教育委員会	
90	深鉢形土器	縄文時代中期	吹上貝塚（昭和34年調査）	和光市教育委員会	
91	深鉢形土器	縄文時代中期	吹上貝塚（昭和34年調査）	和光市教育委員会	
92	深鉢形土器	縄文時代中期	吹上貝塚（昭和34年調査）	和光市教育委員会	
93	深鉢形土器	縄文時代中期	吹上貝塚（昭和34年調査）	和光市教育委員会	
94	浅鉢形土器	縄文時代中期	吹上貝塚（昭和34年調査）	和光市教育委員会	
95	深鉢形土器	縄文時代後期	吹上原遺跡（2次Ａ区）	和光市教育委員会	
96	深鉢形土器	縄文時代後期	吹上原遺跡（4次）	和光市教育委員会	
97	深鉢形土器	縄文時代後期	吹上原遺跡（4次）	和光市教育委員会	
98	深鉢形土器	縄文時代後期	吹上原遺跡（2次Ａ区）	和光市教育委員会	
99	深鉢形土器	縄文時代後期	吹上原遺跡（2次Ａ区）	和光市教育委員会	
100	深鉢形土器	縄文時代後期	吹上原遺跡（2次Ａ区）	和光市教育委員会	
101	甕形土器	弥生時代中期	午王山遺跡（6次）	和光市教育委員会	
102	壺形土器	弥生時代中期	午王山遺跡（8次）	和光市教育委員会	
103	壺形土器	弥生時代中期～後期	午王山遺跡（72号住居）	和光市教育委員会	
104	鉢形土器	弥生時代中期～後期	午王山遺跡（72号住居）	和光市教育委員会	
105	台付甕形土器	弥生時代中期～後期	午王山遺跡（72号住居）	和光市教育委員会	
106	台付甕形土器	弥生時代中期～後期	午王山遺跡（72号住居）	和光市教育委員会	
107	甕形土器	弥生時代中期～後期	午王山遺跡（72号住居）	和光市教育委員会	
108	壺形土器	弥生時代後期	午王山遺跡（9次）	和光市教育委員会	
109	甕形土器	弥生時代後期	午王山遺跡（8次）	和光市教育委員会	
110	甕形土器	弥生時代後期	午王山遺跡（6次）	和光市教育委員会	
111	壺形土器	弥生時代後期	午王山遺跡（6次）	和光市教育委員会	
112	甕形土器	弥生時代後期	午王山遺跡（6次）	和光市教育委員会	
113	甕（広口壺）形土器	弥生時代後期	午王山遺跡（2次）	和光市教育委員会	
114	台付甕形土器	弥生時代後期	午王山遺跡（4次）	和光市教育委員会	
115	壺形土器	弥生時代後期	午王山遺跡（12次）	和光市教育委員会	
116	鉢形土器	弥生時代後期	午王山遺跡（4次）	和光市教育委員会	
117	台付甕形土器	弥生時代後期	午王山遺跡（4次）	和光市教育委員会	
118	壺形土器	弥生時代後期	午王山遺跡（3次）	和光市教育委員会	
119	壺形土器	弥生時代後期	午王山遺跡（8次）	和光市教育委員会	
120	壺形土器	弥生時代後期	午王山遺跡（2次）	和光市教育委員会	
121	台付甕形土器	弥生時代後期	午王山遺跡（4次）	和光市教育委員会	
122	壺形土器	弥生時代後期	午王山遺跡（4次）	和光市教育委員会	
123	壺形土器	弥生時代後期	午王山遺跡（7次）	和光市教育委員会	
124	高杯形土器	弥生時代後期	吹上遺跡（3次）	和光市教育委員会	
125	壺形土器	弥生時代後期	吹上遺跡（3次）	和光市教育委員会	
126	鉢形土器	弥生時代後期	吹上遺跡（3次）	和光市教育委員会	
127	壺形土器	弥生時代後期	吹上遺跡（3次）	和光市教育委員会	
128	高杯形土器	弥生時代後期	吹上遺跡（3次）	和光市教育委員会	
129	壺形土器	弥生時代後期	吹上原遺跡（2次Ａ区）	和光市教育委員会	
130	壺形土器	弥生時代後期	吹上原遺跡（2次Ａ区）	和光市教育委員会	
131	壺形土器	弥生時代後期	吹上原遺跡（3次Ａ区）	和光市教育委員会	
132	器台	古墳時代前期	市場峡・市場上遺跡（24次）	和光市教育委員会	
133	器台	古墳時代前期	市場峡・市場上遺跡（24次）	和光市教育委員会	
134	高杯	古墳時代前期	市場峡・市場上遺跡（24次）	和光市教育委員会	
135	壺形土器	古墳時代前期	市場峡・市場上遺跡（24次）	和光市教育委員会	
136	台付甕形土器	古墳時代前期	市場峡・市場上遺跡（24次）	和光市教育委員会	
137	壺形土器	古墳時代前期	市場峡・市場上遺跡（24次）	和光市教育委員会	
138	土師器　坏	古墳時代後期	市場峡・市場上遺跡（21次）	和光市教育委員会	
139	土師器　坏	古墳時代後期	市場峡・市場上遺跡（21次）	和光市教育委員会	
140	甑	古墳時代後期	市場峡・市場上遺跡（21次）	和光市教育委員会	
141	長胴甕	古墳時代後期	市場峡・市場上遺跡（21次）	和光市教育委員会	
142	大型の壺形土器	弥生時代後期	吹上原遺跡	和光市教育委員会	
143	大型の壺形土器	弥生時代後期	吹上原遺跡	和光市教育委員会	
144	甕形土器	弥生時代後期	午王山遺跡（3次）	和光市教育委員会	
145	壺形土器	弥生時代後期	午王山遺跡（2次）	和光市教育委員会	
146	甕形土器	弥生時代後期	午王山遺跡（9次）	和光市教育委員会	

No.	資料	時期	遺跡・遺構等	所有・保管	備考
147	甕形土器	弥生時代後期	午王山遺跡（14次）	和光市教育委員会	
148	黒曜石製　石器	旧石器時代	午王山遺跡（8次）	和光市教育委員会	蓼科冷山群
149	黒曜石製　石器	旧石器時代	市場峡・市場上遺跡（14次）	和光市教育委員会	諏訪星ヶ台群
150	黒曜石製　石器	旧石器時代	市場峡・市場上遺跡（24次）	和光市教育委員会	箱根畑宿群
151	黒曜石製　石器	旧石器時代	市場峡・市場上遺跡（24次）	和光市教育委員会	神津島恩馳島群
152	黒曜石製　石器	旧石器時代	市場峡・市場上遺跡（24次）	和光市教育委員会	和田鷹山群
153	黒曜石製　石器	旧石器時代	城山南遺跡（1・2次）	和光市教育委員会	蓼科冷山群
154	黒曜石製　石器	旧石器時代	城山南遺跡（1・2次）	和光市教育委員会	和田小深沢群
155	黒曜石製　石器	旧石器時代	市場峡・市場上遺跡（14次）	和光市教育委員会	諏訪星ヶ台群
156	黒曜石製　石器	旧石器時代	越後山遺跡（2次）	和光市教育委員会	蓼科冷山群
157	黒曜石製　石器	縄文時代前期	市場峡・市場上遺跡（10・11次）	和光市教育委員会	神津島恩馳島群
158	黒曜石製　石器	縄文時代前期	市場峡・市場上遺跡（10・11次）	和光市教育委員会	和田鷹山群
159	黒曜石製　石器	縄文時代前期	市場峡・市場上遺跡（14～16次）	和光市教育委員会	神津島恩馳島群
160	黒曜石製　石器	縄文時代中期	吹上原遺跡（3次）	和光市教育委員会	神津島恩馳島群
161	黒曜石採掘場付近で採集した黒曜石原石	-	和田峠	個人	
162	ヒスイ製大珠	縄文時代中期	越後山遺跡（2次）	和光市教育委員会	
163	ヒスイ製垂飾	縄文時代後期	丸山台遺跡	和光市教育委員会	
164	お土産品のヒスイ（5点）	-	糸魚川市のお土産屋	個人	
165	ヒスイ海岸で採集したヒスイに似た石	-	糸魚川市ヒスイ海岸	個人	
166	抉状耳飾（白雲母）	縄文時代前期	吹上原遺跡（2次Ａ区）	和光市教育委員会	
167	深鉢形土器（三十稲場式）	縄文時代後期	丸山台遺跡	和光市教育委員会	
168	パーライト（黒曜石製）	現代	-	㈱有山造園提供	
169	須恵器　甕	古墳時代後期	吹上原遺跡（3次Ｂ区）	和光市教育委員会	
170	須恵器　甕	古墳時代後期	吹上原遺跡（3次Ｂ区）	和光市教育委員会	
171	須恵器　甕	古墳時代後期	吹上原遺跡（2次Ａ区）	和光市教育委員会	
172	須恵器　壺	古墳時代後期	吹上原横穴墓	和光市教育委員会	
173	須恵器　提瓶	古墳時代後期	吹上原遺跡（2次Ａ区）	和光市教育委員会	
174	須恵器　坏	奈良時代	午王山遺跡（9次）	和光市教育委員会	
175	須恵器　坏	奈良時代	午王山遺跡（9次）	和光市教育委員会	
176	須恵器　坏	奈良時代	吹上遺跡（3次）	和光市教育委員会	
177	須恵器　坏	奈良時代	吹上遺跡（3次）	和光市教育委員会	
178	須恵器　坏	奈良時代	吹上遺跡（3次）	和光市教育委員会	
179	須恵器　坏	奈良時代	吹上遺跡（3次）	和光市教育委員会	
180	須恵器　坏	奈良時代	吹上遺跡（3次）	和光市教育委員会	
181	須恵器　坏	奈良時代	吹上遺跡（3次）	和光市教育委員会	
182	土師器　坏	奈良時代	吹上遺跡（3次）	和光市教育委員会	
183	須恵器　坏蓋	奈良時代	下里遺跡（1次）	和光市教育委員会	
184	須恵器　坏蓋	奈良時代	吹上遺跡（3次）	和光市教育委員会	
185	須恵器　坏（墨書土器）	奈良時代	吹上遺跡（3次）	和光市教育委員会	「定」
186	須恵器　坏（墨書土器）	平安時代	漆台遺跡（1次）	和光市教育委員会	「大」
187	須恵器　坏（墨書土器）	平安時代	市場峡・市場上遺跡（19次）	和光市教育委員会	「井」
188	須恵器　坏（墨書土器）	平安時代	市場峡・市場上遺跡（19次）	和光市教育委員会	「吉井」
189	須恵器　坏（墨書土器）	平安時代	市場峡・市場上遺跡（7次）	和光市教育委員会	「吉井」
190	須恵器　坏（墨書土器）	平安時代	峯前遺跡（1次）	和光市教育委員会	「加万」
191	須恵器　坏（墨書土器）	平安時代	峯前遺跡（1次）	和光市教育委員会	「守」
192	須恵器　坏（墨書土器）	平安時代	仏ノ木遺跡（5次）	和光市教育委員会	「尺」又は「艮」
193	須恵器　円面硯	平安時代	漆台遺跡（1次）	和光市教育委員会	
194	刀子	平安時代	市場峡・市場上遺跡（19次）	和光市教育委員会	
195	刀子	平安時代	市場峡・市場上遺跡（7次）	和光市教育委員会	
196	刀子	平安時代	四ツ木遺跡（3次）	和光市教育委員会	
197	緑釉陶器片（3点）	平安時代	吹上遺跡（3次）	和光市教育委員会	
198	帯金具　巡方	平安時代	吹上遺跡（3次）	和光市教育委員会	
199	石製紡錘車	平安時代	市場峡・市場上遺跡（7次）	和光市教育委員会	
200	鉄製紡錘車	平安時代	峯前遺跡（5次）	和光市教育委員会	
201	鉄鏃	奈良時代	下里遺跡（1次）	和光市教育委員会	
202	鉄鏃	平安時代	仏ノ木遺跡（4次）	和光市教育委員会	
203	鉄鎌	平安時代	市場峡・市場上遺跡（21次）	和光市教育委員会	
204	縦矧板冑（鉄製）	古墳時代	吹上原遺跡	和光市教育委員会	
205	ガラス玉（6点）	古墳時代	吹上原遺跡	和光市教育委員会	
206	ガラス玉（2点）	弥生時代	吹上原遺跡	和光市教育委員会	
207	災害時相互応援協定書	平成7年	佐久市-和光市	和光市危機管理室	
208	災害時相互応援協定書	平成8年	朝霞地区４市	和光市危機管理室	
209	災害時相互応援協定書	平成8年	鳥山町（現那須烏山市）-和光市	和光市危機管理室	
210	災害時相互応援協定書	平成16年	十日町市-和光市	和光市危機管理室	
211	災害時相互応援協定書	平成24年	東松山市-和光市	和光市危機管理室	

和光市制施行 45 周年記念特別展
WAKO 市制施行 45周年
十日町市
那須烏山市
出土遺物の交流と結（ゆい）
－自治体間相互応援協定締結 20 周年記念－
佐久市
東松山市
志木市
朝霞市
新座市
和光市
埼玉県ふるさと創造資金
～記念講演会～
日時：平成 27 年 11 月 29 日（日）
場所：和光市民文化センター　小ホール（サンアゼリア）
【午前の部】10：15 ～ 12：15（開場　9：50）
吹上貝塚とその時代　講師：小林達雄（國學院大學名誉教授）
【午後の部】時間：13：15 ～ 16：30
新潟県十日町市の遺跡　講師：笹沼　巳（十日町市教育委員会）
長野県佐久市の遺跡　講師：小林眞寿（佐久市教育委員会）
栃木県那須烏山市の遺跡　講師：鈴木芳英（那須烏山市教育委員会）
～記念講演会の申込方法～
記念講演会の予約受付は、10 月 1 日から開始します。電話・E-mail・窓口のいずれかの方法でお申込ください（先着順・定員に達し次第終了）。
E-mail でお申込の際は、件名を「11 月 29 日特別展記念講演会申込」とし、本文中に参加される方の氏名・住所・電話番号を明記してください。
■定　員：200 人
■申 込 先：和光市教育委員会生涯学習課文化財保護担当
■TEL：048-424-9119　■E-mail：h0300@city.wako.lg.jp
※E-mail でのお申込の場合は、生涯学習課からの連絡をもって申込完了となります。
■日　時：平成 27 年 11 月 19 日（木）～ 12 月 6 日（日）
9：00 ～ 17：00
■場　所：和光市民文化センター（サンアゼリア）
展示ホール（埼玉県和光市広沢1-5）
■入場料：無料
主催：和光市・和光市教育委員会
案内図
【交通案内】
東武東上線・東京メトロ有楽町線・副都心線で和光市駅下車。「南口」より徒歩 15 分程度。

図１　展示会ポスター

図 2-1　展示会場正面

図 2-2　アイキャッチの火焔型土器

図 3　ガラスケース（小）展示状態

図 4　露出展示 縄文土器

図 5-1　平置展示ケース

図 5-2　ケース内拡大

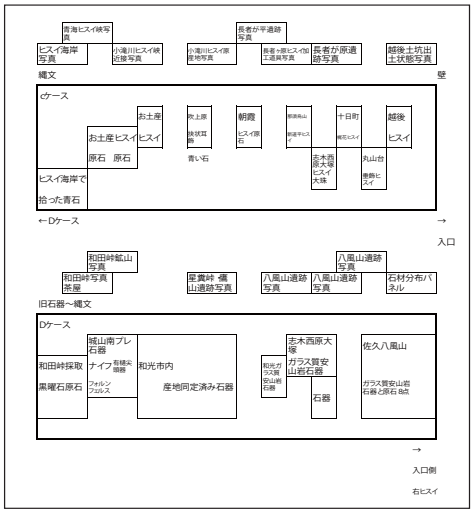


図 5-3　平置ケース内配置予定図

図６　独立ケース展示状態

図 7-1　ガラスケース（大）展示状態

図 7-2　ケース内拡大

図 8　露出展示 弥生時代土器

図 9-1　奈良・平安時代 展示状態

図 9-2　平安時代 円面硯

図 10　展示ホール全体

図 11　友好都市の紹介

図 12　小学校の見学

図 13　遺物返却

図 14　遺物返却・確認

図 15　遺物返却・確認

新指定文化財紹介

午王山遺跡発掘調査出土の弥生時代遺物

和光市教育委員会

・種　別：有形文化財（考古資料）
・員　数：107 点
・所在地：和光市
・所有者：和光市
・指定年月日：平成 29 年 3 月 31 日
・出土地：午王山遺跡
（和光市新倉３丁目 2841 － 1ほか）

出土地の午王山遺跡は、旧石器時代から中世までの複合遺跡であるが、武蔵野台地の北縁辺に集中する遺跡群のなかで、弥生時代遺跡として独立丘陵上を占拠する唯一の環濠集落であり、埼玉県南部から東京都北部の荒川下流域での重要遺跡である。

午王山遺跡は、第 1 次調査から第 15 次調査まで発掘調査が行われ、150 軒以上の住居跡と３条の環濠が検出されている。そのなかで、住居跡と環濠から出土した弥生時代遺物において、時期区分の要素、地域間交流を示す要素、その他祭祀遺物などで、文様・器形等の特徴を示す遺物を和光市指定文化財として指定した。

指定遺物としては、下記の三要素の観察から選択された。

１　時期的要素
①中期末葉の宮ノ台式土器
②後期前半の中部高地系櫛描簾状文土器（岩鼻式）と東京湾岸系（久ヶ原式）の混成を示す資料
③後期中葉から後半の東海系疑似縄文土器（菊川式）の波及・定着を示す資料
④午王山遺跡での弥生集落の終焉を示す資料

２　地域間交流の要素
①北武蔵（比企・入間）地域と東京湾岸の共伴関係
②東海地方からの移動
③銅鐸形土製品、青銅製品の出土

３　祭祀・装飾品等
双角双孔土製品、土鈴、土製勾玉、土製玉等

市指定文化財として、指定されるまでには、平成 27 年 2 月 18 日和光市文化財保護委員会において、諮問を受け審議することとなり、計６回の文化財保護委員会議での審議の他、実見調査及び事務局との調整を行い、埼玉県文化財保護審議委員の柿沼幹夫氏にも平成 27 年 12 月３日に午王山土器を実見していただき、ご意見を伺った。

平成 29 年 2 月 22 日以上の経緯により、諮問から実見調査等を経て、出土遺物の最終選定の後、弥生時代の遺物としての重要性をまとめ、別紙のとおり答申された。同年３月 30 日教育委員会会議にて承認後告示され、同年３月３１日和光市指定文化財に指定された。

平成 29 年 2 月 22 日

和光市教育委員会
教育長　戸部　惠一　様

和光市文化財保護委員会
委 員 長　　田中　明

午王山遺跡発掘調査出土の弥生時代遺物の文化財指定について（答申）

平成 27 年 2 月 18 日付け、和教生代 179 号で諮問された「午王山遺跡発掘調査出土の弥生時代遺物の文化財指定」について、審議した結果を別紙のとおり答申いたします。

午王山遺跡の弥生土器の指定について

午王山遺跡の弥生時代の環濠集落から出土した多くの土器は、中期末から後期初頭に、集落の形成と環濠の掘削をはじめ、終末期には村が廃絶し、古墳時代に継続していない。一般的に弥生時代の環濠集落は、終末期でほとんどが廃絶し、古墳時代まで継続する遺跡は少ない。一例を挙げると奈良県の弥生時代前期から後期に継続した、唐古・鍵遺跡から纒向遺跡への移動に象徴されるが、東海地方から南関東地方で発展した環濠集落の多くが、古墳時代に継続しない。北区赤羽台遺跡の弥生時代の環濠は、後期に廃絶し古墳時代には西側に方形遺構の居館が形成され、社会構成の変化を示すことになる。

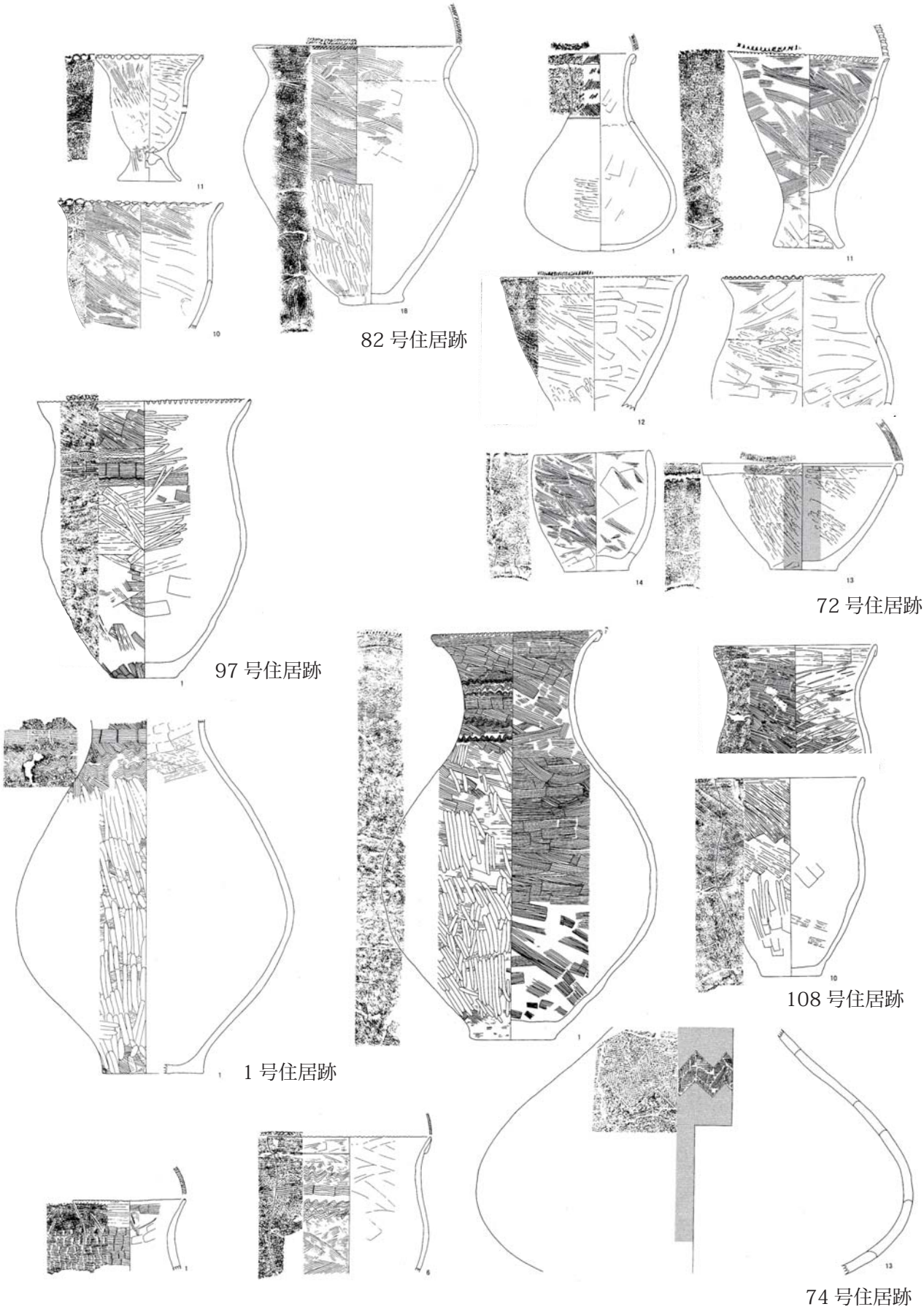
午王山遺跡の環濠集落は、ほぼ弥生時代後期の 200 年間に継続したと考えられ、土器の型式の変化が長期に及ぶことになる。南関東地方の中期末の宮ノ台式から、後期の久ヶ原式と弥生町式に、古墳時代と考える前野町式まで、学史による分類が長く使用されてきた。

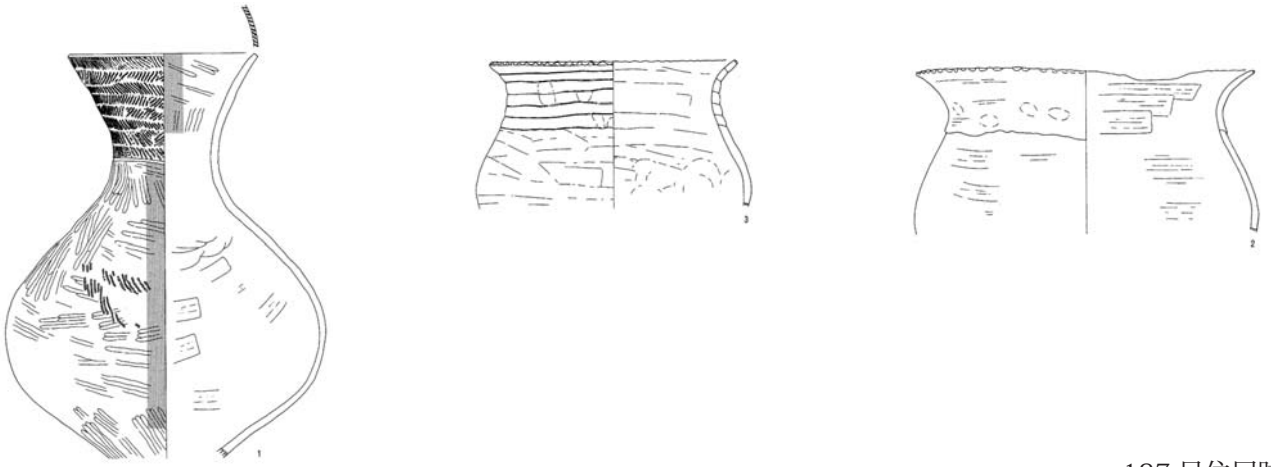
今回の市指定の候補となった弥生土器は、多くが南関東系の宮ノ台式から弥生町式に属すると考えているが、遺跡の内容から複雑な様相を示している。北関東系の櫛目文土器の岩鼻式土器や、縄文と輪積痕が特徴の吉ヶ谷式土器との関係を窺わせる北からの土器群と、櫛状工具による連続刺突文の羽状文壺形土器が、東海地方の静岡県（遠江）中部の菊川式に類似する土器も出土し、南北の遠隔地との交流を示している。銅鐸形土製品は、東海地方の三遠式銅鐸や小銅鐸との関連が想定できる。

指定候補の弥生土器は、竪穴住居跡と環濠からの出土品に大別され、前者の集落の開始期の中期末の特徴を示す 82 号、後期はじめの北関東系の 97・1・１０８・７４・１４１号と、南関東系前半の 137・5 号のナデ整形甕から、後半の 75・57・109・62 号の刷毛整形甕に分けてみた。環濠 2 号の溝中から発掘した土器群は、壺・甕、鉢・埦の全形の状態の良好な土器を中心に、壺と鉢は文様の特徴を考慮して選択した。住居跡の 69・141・116 号の土製品と、99・95 号と 2 号溝の手捏土器に土鈴と青銅製品を加えた。

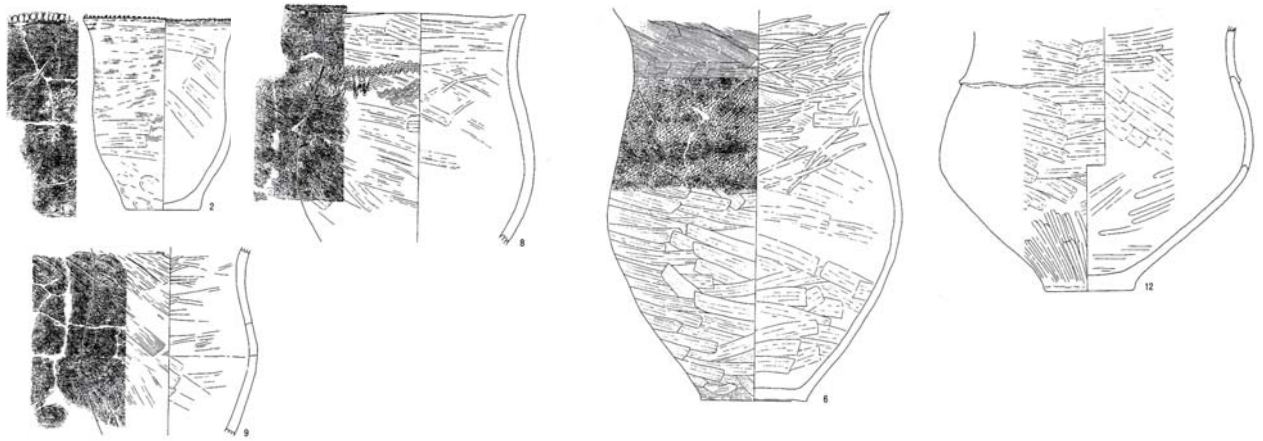
環濠 2 号の銅鐸形土製品は、3 点が西溝で第 5 次、南溝で第 3・7 次に出土し、様々な特徴で銅鐸そのものか小銅鐸を模倣したか不明である。朝霞市向山遺跡の 2 点と板橋区四葉地区遺跡群でも 1 点が報告されている。

住居跡の土製品は、勾玉形 3 点・円形土板 4 点・小玉 4 点・不整形 1 点に、環濠 2 号の円形土板があり、装飾か信仰の意義があるか問題である。

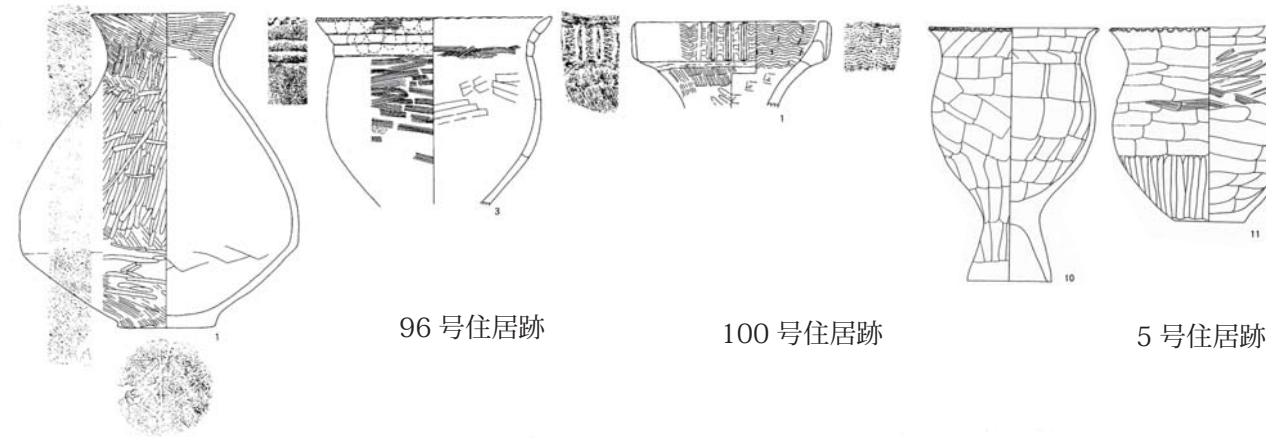

82 号住居跡
72 号住居跡
97 号住居跡
108 号住居跡
1 号住居跡
74 号住居跡



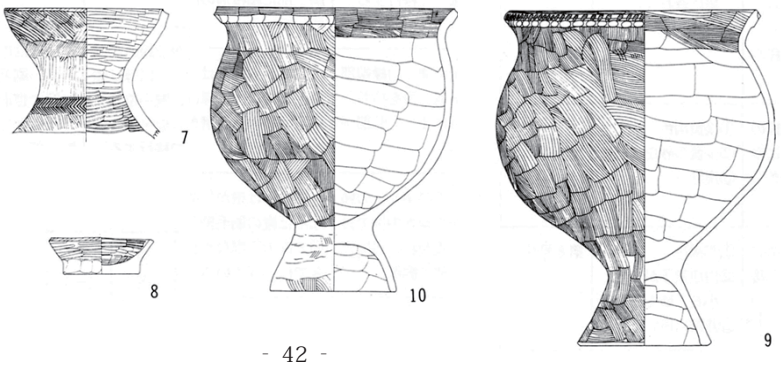
137 号住居跡



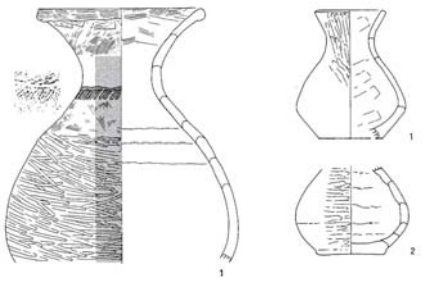
141 号住居跡

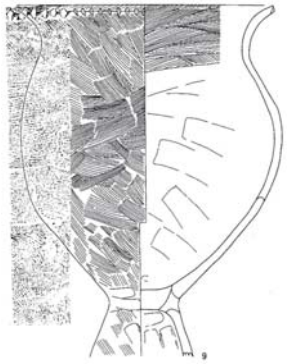


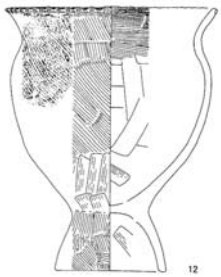
96 号住居跡　100 号住居跡　5 号住居跡



10 号住居跡

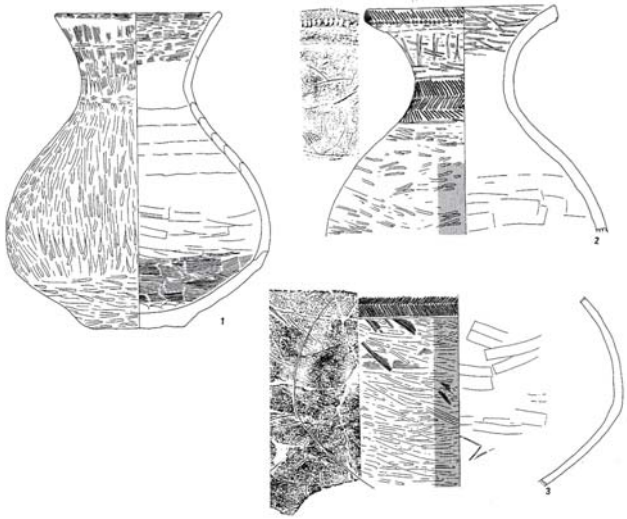


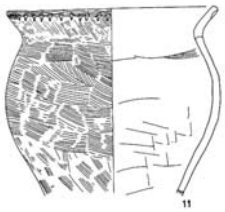


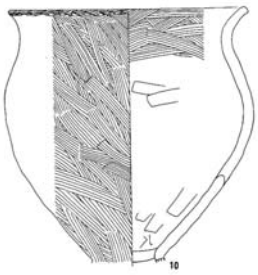


63 号住居跡

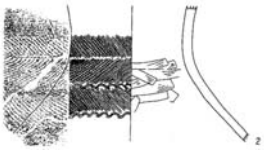
75 住居跡

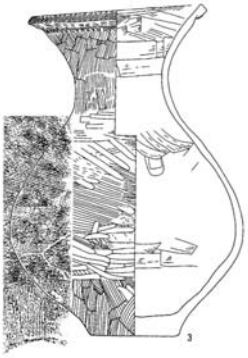


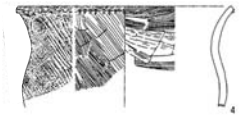


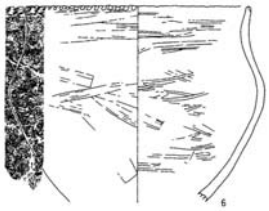


57 号住居跡

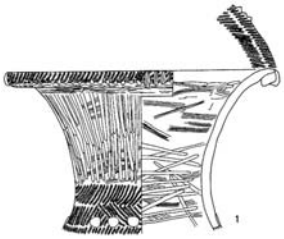


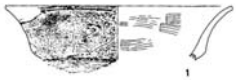


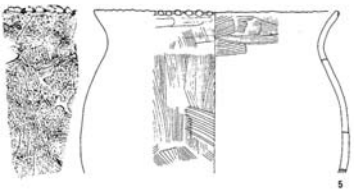




109 号住居跡

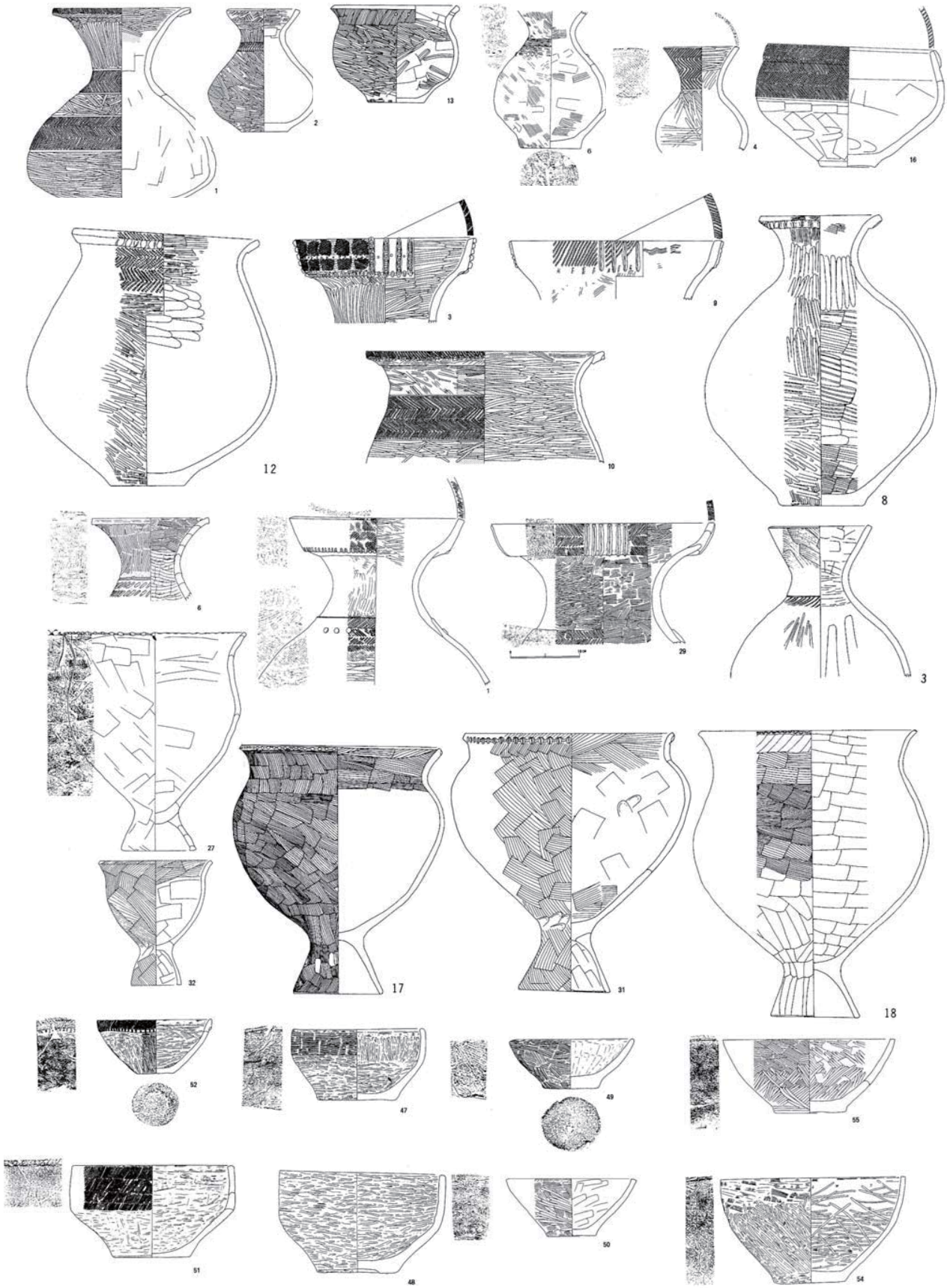






51 号住居跡

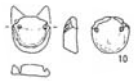
62 号住居跡



２号溝

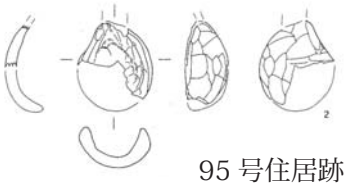
69 号住居跡

141 号住居跡

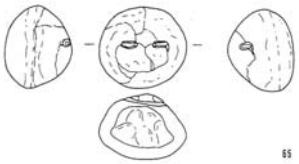


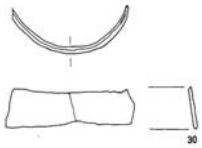
116 号住居跡

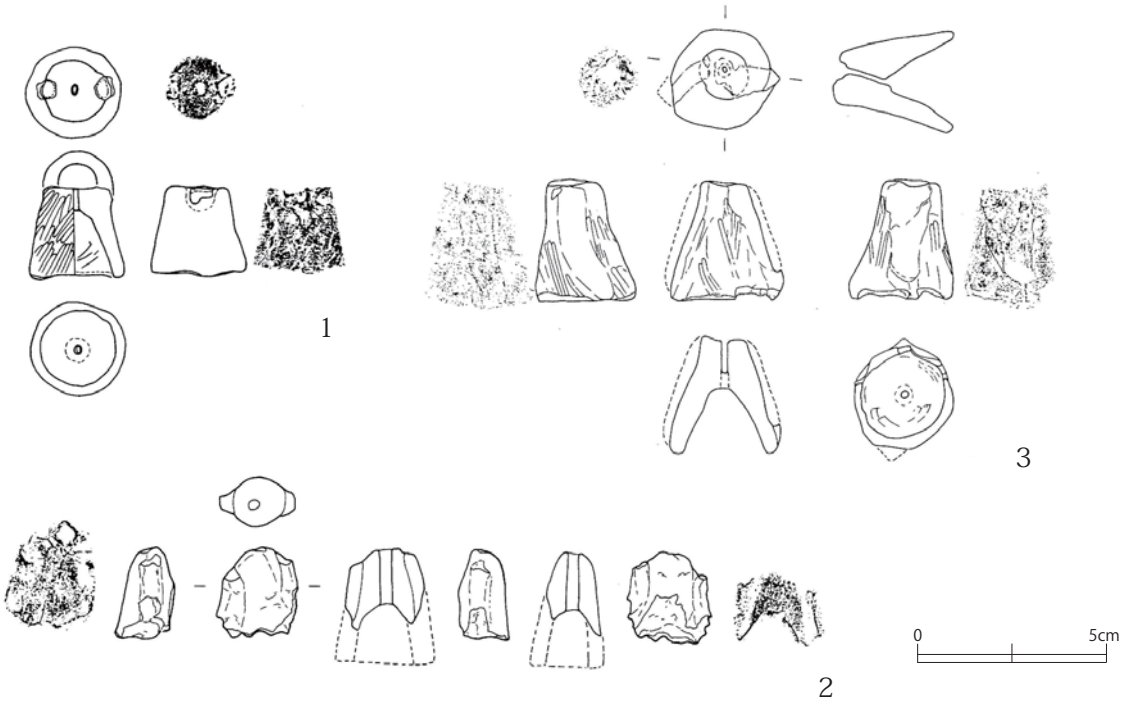
99 号住居跡



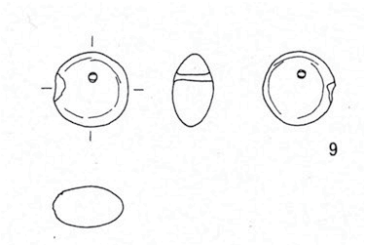
95 号住居跡



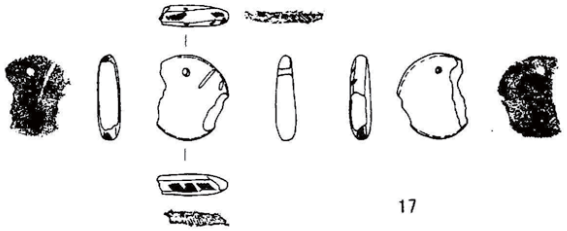




2 号溝

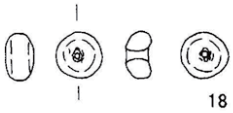


5 号住居跡

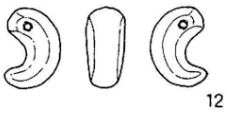


77 号住居跡

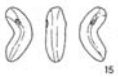
60・61 号住居跡



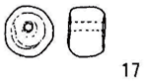
84 号住居跡



97 号住居跡

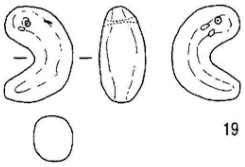


100 号住居跡

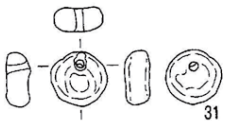


108 号住居跡

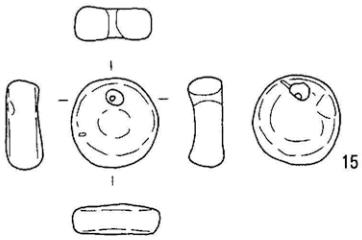
129 号住居跡



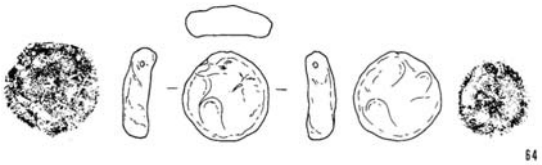
132 号住居跡



141 号住居跡



144 号住居跡



2 号溝

執筆者紹介

森　　朋久（明治大学農学部兼任講師・和光市文化財保護委員会委員）
鈴木　一郎　（和光市教育委員会）
安井　翠　　（和光市教育委員会）

ISSN 2189-3276

和光市デジタルミュージアム紀要　第３号
発　行　日　　平成 29（2017）年３月 31 日発行
編集・発行　　和光市教育委員会（担当：生涯学習課）
〒 351-0192　埼玉県和光市広沢 1-5
TEL　048-464-1111（代表）
和光市デジタルミュージアムれきたまＵＲＬ
http://rekitama-wako.jp

れきたま
QR コード